



(様式例第11)

栃那病携第 49 号
令和 5年 11月27日

栃木県知事 殿

住 所 東京都港区芝大門1-1-3

申請者

氏 名 日本赤十字社
社長 清家 篤

那須赤十字病院の地域医療支援病院の業務報告について

標記について、医療法第12条の2の規定に基づき、令和4年度の業務に関して報告します。

記

1 開設者の住所及び氏名

住所	〒105-8521 東京都港区芝大門1-1-3
氏名	日本赤十字社 社長 清家 篤

(注) 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2 名称

那須赤十字病院

3 所在の場所

〒324-8686 栃木県大田原市中田原1081-4 電話 (0287) 23 - 1122

4 病床数

精神病床	感染症病床	結核病床	療養病床	一般病床	合計
0床	6床	0床	0床	454床	460床



5 施設の構造設備

施設名	設備概要			
集中治療室	(主な設備) 生体情報モニタ、人工呼吸器、人工透析装置・血液ガス測定装置、大動脈バルーンポンプ装置、心電計 病床数 8床			
化学検査室	(主な設備) 実験台、多項目自動分析装置、免疫測定装置			
細菌検査室	(主な設備) 実験台、安全キャビネット、全自動血液培養検査装置			
病理検査室	(主な設備) パラフインブロック冷却装置、凍結組織切断薄切装置			
病理解剖室	(主な設備) 解剖台・ホルマリン槽流し台、肉眼写真撮影装置			
研究室	(主な設備) 電カル用パソコン、インターネットの接続管理			
マイタウンホール	室数	1室	収容定員	250人
多目的ホール	室数	1室	収容人数	64人
図書室	室数	2室	蔵書数	34,000冊程度
救急用又は患者搬送用自動車	(主な設備) 酸素、吸引器、ストレッチャー 保有台数 1台			
医薬品情報管理室	[専用室の場合]	床面積	26.76 m ²	

(注) 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器等を記入すること。

(第12号様式) 他の病院又は診療所から紹介された患者に対し医療を提供する体制が整備されていることを証する書類及び救急医療の提供実績

1. 地域医療支援病院紹介率及び地域医療支援病院逆紹介率

地域医療支援病院紹介率	83.5%	算定期間	R4年 4月 1日～ R5年 3月 31日
地域医療支援病院逆紹介率	81.8%		
算出根拠	A : 紹介患者の数		11,805人
	B : 初診患者の数		14,137人
	C : 逆紹介患者の数		11,559人

(注) 1 「地域医療支援病院紹介率」欄は、AをBで除した数に100を乗じて、小数点以下第1位まで記入すること。

(注) 2 「地域医療支援病院逆紹介率」欄は、CをBで除した数に100を乗じて、小数点以下第1位まで記入すること。

(注) 3 それぞれの患者数については、前年度の延数を記入すること。

(第13号様式) 救急医療を提供する能力を有することを証する書類

1 重症救急患者の受入れに対応できる医療従事者の確保状況

No.	職種	氏名	勤務の態様	勤務時間	備考
1	医師	井上 晃男	常勤	週38時間45分	
3	医師	白石 悟	常勤	週38時間45分	
4	医師	阿久津 郁夫	常勤	週38時間45分	
5	医師	佐藤 隆	常勤	週38時間45分	
6	医師	崎尾 浩由	常勤	週38時間45分	
7	医師	福島 史哉	常勤	週38時間45分	
8	医師	伊藤 雅史	常勤	週38時間45分	
9	医師	景山 倫也	常勤	週38時間45分	
10	医師	小林 洋行	常勤	週38時間45分	
11	医師	池野 義彦	常勤	週38時間45分	
12	医師	大口 真寿	常勤	週38時間45分	
13	医師	吉田 徹	常勤	週38時間45分	
14	医師	小泉 論	常勤	週38時間45分	
15	医師	町田 安孝	常勤	週38時間45分	
16	医師	田宮 千知	常勤	週38時間45分	
17	医師	新井 由季	常勤	週38時間45分	
18	医師	篠原 安武	常勤	週38時間45分	

19	医師	中田 洋介	常勤	週38時間45分	
20	医師	岩松 浩一	常勤	週38時間45分	
21	医師	江部 敏生	常勤	週38時間45分	
22	医師	菱垣 裕里	常勤	週38時間45分	
23	医師	梅園 龍	常勤	週38時間45分	
24	医師	神賀 雄介	常勤	週38時間45分	
25	医師	横山 はるか	常勤	週38時間45分	
26	医師	小山 竣介	常勤	週38時間45分	
27	医師	坂田 知久	常勤	週38時間45分	
28	医師	前橋 美歌	常勤	週38時間45分	
29	医師	大類 華子	常勤	週38時間45分	
30	医師	石井 純平	常勤	週38時間45分	
31	医師	小川 美織	常勤	週38時間45分	
32	医師	野村 好平	常勤	週38時間45分	
33	医師	大村 翔平	常勤	週38時間45分	
34	医師	梶谷 さゆり	常勤	週38時間45分	
35	医師	小森 慈海	常勤	週38時間45分	
36	医師	石崎 郁絵	常勤	週38時間45分	
37	医師	田村 光	常勤	週38時間45分	
38	医師	小島 正夫	常勤	週38時間45分	

39	医師	城戸 啓	常勤	週38時間45分	
40	医師	青木 真彦	常勤	週38時間45分	
41	医師	五十嵐 高広	常勤	週38時間45分	
42	医師	川口 英之	常勤	週38時間45分	
43	医師	石井 智	常勤	週38時間45分	
44	医師	柴木 俊平	常勤	週38時間45分	
45	医師	星 勇氣	常勤	週38時間45分	
46	医師	梅津 英央	常勤	週38時間45分	
47	医師	菊地 陽	常勤	週38時間45分	
48	医師	赤堀 真	常勤	週38時間45分	
49	医師	望月 彰浩	常勤	週38時間45分	
50	医師	竹内 大作	常勤	週38時間45分	
51	医師	吉川 勝久	常勤	週38時間45分	
52	医師	飯村 拓哉	常勤	週38時間45分	
53	医師	知場 一記	常勤	週38時間45分	
54	医師	小曾根 和毅	常勤	週38時間45分	
55	医師	宇梶 真生	常勤	週38時間45分	
56	医師	羽鳥 祥太	常勤	週38時間45分	
57	医師	荒川 明子	常勤	週38時間45分	
58	医師	深谷 春介	常勤	週38時間45分	

59	医師	山田 延弘	常勤	週38時間45分	
60	医師	神原 常仁	常勤	週38時間45分	
61	医師	水野 智弥	常勤	週38時間45分	
62	医師	瀧澤 寛崇	常勤	週38時間45分	
63	医師	田中 恒成	常勤	週38時間45分	
64	医師	金子 奈穂美	常勤	週38時間45分	
65	医師	中山 真里	常勤	週38時間45分	
66	医師	立石 真子	常勤	週38時間45分	
67	医師	鈴木 幹崇	常勤	週38時間45分	
68	医師	酒井 瑞乃	常勤	週38時間45分	
69	医師	柿沼 宏幸	常勤	週38時間45分	
70	医師	田中 禎一	常勤	週38時間45分	
71	医師	萱嶋 香子	常勤	週38時間45分	
72	医師	景山 めぐみ	常勤	週38時間45分	
73	医師	住田 直樹	常勤	週38時間45分	
74	医師	片柳 翔太	常勤	週38時間45分	
75	医師	伊藤 弘人	常勤	週38時間45分	
76	医師	宮城 徳人	常勤	週38時間45分	
77	医師	青山 裕美	常勤	週38時間45分	
78	医師	齋藤 健太郎	常勤	週38時間45分	

79	医師	水沼 仁孝	常勤	週38時間45分	
80	医師	砂川 好光	常勤	週38時間45分	
81	医師	長谷川 伸之	常勤	週38時間45分	
82	医師	吉田 祐文	常勤	週38時間45分	
83	医師	林 堅二	常勤	週38時間45分	
84	医師	木多 秀彰	常勤	週38時間45分	
85	医師	宍戸 宏行	常勤	週38時間45分	
86	医師	野間 真人	常勤	週38時間45分	
87	医師	川上 博紀	常勤	週38時間45分	
88	医師	高山 紗和	常勤	週38時間45分	
89	医師	鬼頭 直文	常勤	週38時間45分	
90	医師	渥美 秋成	常勤	週38時間45分	
91	医師	丸山 耕平	常勤	週38時間45分	
92	医師	遠藤 夏実	常勤	週38時間45分	
93	医師	大森 修啓	常勤	週38時間45分	
94	医師	小手川 太朗	常勤	週38時間45分	
95	医師	斯波 凜	常勤	週38時間45分	
96	医師	滝澤 典	常勤	週38時間45分	
97	医師	日引 皐太郎	常勤	週38時間45分	
98	医師	藤田 素輝	常勤	週38時間45分	

1	薬剤師	中丸 朗	常勤	週38時間45分	
2	薬剤師	佐藤 学	常勤	週38時間45分	
3	薬剤師	堀中 大輔	常勤	週38時間45分	
4	薬剤師	金子 和生	常勤	週38時間45分	
5	薬剤師	内藤 裕之	常勤	週38時間45分	
6	薬剤師	金森 麻土香	常勤	週38時間45分	
7	薬剤師	村上 賢志	常勤	週38時間45分	
8	薬剤師	小祝 梓	常勤	週38時間45分	
9	薬剤師	倉井 岳史	常勤	週38時間45分	
10	薬剤師	高野 尊行	常勤	週38時間45分	
11	薬剤師	青木 正子	常勤	週38時間45分	
12	薬剤師	田村 華恵	常勤	週38時間45分	
13	薬剤師	倉井 由香	常勤	週38時間45分	
14	薬剤師	柿沼 貴広	常勤	週38時間45分	
15	薬剤師	船山 将栄	常勤	週38時間45分	
16	薬剤師	柿沼 博子	常勤	週38時間45分	
17	薬剤師	小川 結花	常勤	週38時間45分	
18	薬剤師	石橋 楽至	常勤	週38時間45分	
19	薬剤師	糸村 秀太	常勤	週38時間45分	
20	薬剤師	松本 宏美	常勤	週38時間45分	

21	薬剤師	後藤 加菜	常勤	週38時間45分	
22	薬剤師	中谷 ありさ	常勤	週38時間45分	
23	薬剤師	赤羽 孝之	常勤	週38時間45分	
24	薬剤師	塚田 光	常勤	週38時間45分	
25	薬剤師	中丸 諒	常勤	週38時間45分	
1	放射線技師	山下 明	常勤	週38時間45分	
2	放射線技師	吉成 亀蔵	常勤	週38時間45分	
3	放射線技師	中野 繁明	常勤	週38時間45分	
4	放射線技師	佐藤 統幸	常勤	週38時間45分	
5	放射線技師	井戸沼 佳明	常勤	週38時間45分	
6	放射線技師	郡司 康範	常勤	週38時間45分	
7	放射線技師	諏佐 裕美	常勤	週38時間45分	
8	放射線技師	藤田 一美	常勤	週38時間45分	
9	放射線技師	加藤 美和	常勤	週38時間45分	
10	放射線技師	大木 敦史	常勤	週38時間45分	
11	放射線技師	増淵 裕介	常勤	週38時間45分	
12	放射線技師	池田 幸弘	常勤	週38時間45分	
13	放射線技師	石原 誠	常勤	週38時間45分	
14	放射線技師	大谷津 崇	常勤	週38時間45分	
15	放射線技師	石崎 充	常勤	週38時間45分	

16	放射線技師	鈴木 悠	常勤	週38時間45分	
17	放射線技師	磯 裕樹	常勤	週38時間45分	
18	放射線技師	阿部 直央	常勤	週38時間45分	
19	放射線技師	相馬 美咲	常勤	週38時間45分	
20	放射線技師	中澤 祐介	常勤	週38時間45分	
21	放射線技師	本多 明香里	常勤	週38時間45分	
22	放射線技師	嶋田 涼香	常勤	週38時間45分	
23	放射線技師	杉山 佳樹	常勤	週38時間45分	
24	放射線技師	青木 悠征	常勤	週38時間45分	
25	放射線技師	菅俣 祐太	常勤	週38時間45分	
26	放射線技師	関口 大陸	常勤	週38時間45分	
27	放射線技師	深沢 珠恵	常勤	週38時間45分	
1	検査技師	田村 勝幸	常勤	週38時間45分	
2	検査技師	薄井 啓一郎	常勤	週38時間45分	
3	検査技師	益子 英樹	常勤	週38時間45分	
4	検査技師	上野 恵美	常勤	週38時間45分	
5	検査技師	猪瀬 由紀子	常勤	週38時間45分	
6	検査技師	薄井 千陽	常勤	週38時間45分	
7	検査技師	百瀬 薫	常勤	週38時間45分	
8	検査技師	薄井 和江	常勤	週38時間45分	

9	検査技師	佐藤 美香	常勤	週38時間45分	
10	検査技師	黒崎 由美	常勤	週38時間45分	
11	検査技師	加藤 昌利	常勤	週38時間45分	
12	検査技師	佐藤 伴樹	常勤	週38時間45分	
13	検査技師	酒井 正祥	常勤	週38時間45分	
14	検査技師	田村 未来	常勤	週38時間45分	
15	検査技師	菊地 真由美	常勤	週38時間45分	
16	検査技師	坂本 香織	常勤	週38時間45分	
17	検査技師	高橋 佳奈	常勤	週38時間45分	
18	検査技師	神山 奈津子	常勤	週38時間45分	
19	検査技師	坂和 実紅	常勤	週38時間45分	
20	検査技師	秋元 眸	常勤	週38時間45分	
21	検査技師	伊井 笙	常勤	週38時間45分	
22	検査技師	奥澤 瑠香	常勤	週38時間45分	
23	検査技師	後藤 雄磨	常勤	週38時間45分	
24	検査技師	束原 麻友	常勤	週38時間45分	
25	検査技師	上吉原 祥穂	常勤	週38時間45分	
26	検査技師	鈴木 菜央	常勤	週38時間45分	
1	臨床工学技士	室井 純一	常勤	週38時間45分	
2	臨床工学技士	十河 匡光	常勤	週38時間45分	

3	臨床工学技士	鈴木 長明	常勤	週38時間45分	
4	臨床工学技士	秋元 郁美	常勤	週38時間45分	
5	臨床工学技士	梶野 公亨	常勤	週38時間45分	
6	臨床工学技士	齊藤 夏子	常勤	週38時間45分	
7	臨床工学技士	曾我 倫和	常勤	週38時間45分	
8	臨床工学技士	関戸 貴大	常勤	週38時間45分	
9	臨床工学技士	佐久間 皓平	常勤	週38時間45分	
10	臨床工学技士	岩崎 陸也	常勤	週38時間45分	
11	臨床工学技士	佐藤 遥樹	常勤	週38時間45分	
12	臨床工学技士	三浦 聖奈	常勤	週38時間45分	
1	看護師	菊池 範江	常勤	週38時間45分	
2	看護師	井上 文子	常勤	週38時間45分	
3	看護師	狩野 満里	常勤	週38時間45分	
4	看護師	渡邊 信代	常勤	週38時間45分	
5	看護師	相馬 幸子	常勤	週38時間45分	
6	看護師	野原 往子	常勤	週38時間45分	
7	看護師	井戸沼 由美子	常勤	週38時間45分	
8	看護師	人見 優子	常勤	週38時間45分	
9	看護師	仲澤 恵	常勤	週38時間45分	
10	看護師	大竹 栄子	常勤	週38時間45分	

11	看護師	吉成 美津子	常勤	週38時間45分	
12	看護師	豊田 豊子	常勤	週38時間45分	
13	看護師	野澤 美枝子	常勤	週38時間45分	
14	看護師	益子 みどり	常勤	週38時間45分	
15	看護師	加藤 久賀	常勤	週38時間45分	
16	看護師	大島 優子	常勤	週38時間45分	
17	看護師	星 麻美	常勤	週38時間45分	
18	看護師	高橋 才子	常勤	週38時間45分	
19	看護師	菅野 麗美	常勤	週38時間45分	
20	看護師	高久 由美子	常勤	週38時間45分	
21	看護師	福西 由貴子	常勤	週38時間45分	
22	看護師	戸村 さよ子	常勤	週38時間45分	
23	看護師	森 由紀子	常勤	週38時間45分	
24	看護師	清水 美子	常勤	週38時間45分	
25	看護師	高久 陽子	常勤	週38時間45分	
26	看護師	藤田 明美	常勤	週38時間45分	
27	看護師	渡邊 八千代	常勤	週38時間45分	
28	看護師	高橋 真由美	常勤	週38時間45分	
29	看護師	津久井 はるみ	常勤	週38時間45分	
30	看護師	矢板 紀生	常勤	週38時間45分	

31	看護師	戸村 麻衣子	常勤	週38時間45分	
32	看護師	結城 理恵子	常勤	週38時間45分	
33	看護師	大井 利絵	常勤	週38時間45分	
34	看護師	本多 陽一	常勤	週38時間45分	
35	看護師	平野 彩子	常勤	週38時間45分	
36	看護師	黒谷 真利子	常勤	週38時間45分	
37	看護師	田積 未沙絵	常勤	週38時間45分	
38	看護師	平山 奈津美	常勤	週38時間45分	
39	看護師	菊地 麻由美	常勤	週38時間45分	
40	看護師	東田 優香	常勤	週38時間45分	
41	看護師	福田 彰	常勤	週38時間45分	
42	看護師	佐藤 胡桃	常勤	週38時間45分	
43	看護師	坂内 雄樹	常勤	週38時間45分	
44	看護師	白井 将之	常勤	週38時間45分	
45	看護師	大場 千恵	常勤	週38時間45分	
46	看護師	磯永 寿美	常勤	週38時間45分	
47	看護師	後藤 真菜美	常勤	週38時間45分	
48	看護師	大塚 日夏莉	常勤	週38時間45分	
49	看護師	鈴木 香苗	常勤	週38時間45分	
50	看護師	大柿 あかね	常勤	週38時間45分	

51	看護師	黒木 里見	常勤	週38時間45分	
52	看護師	倉井 雅人	常勤	週38時間45分	
53	看護師	三ツ木 結津葉	常勤	週38時間45分	
54	看護師	関谷 杏奈	常勤	週38時間45分	
55	看護師	佐久間 美渚	常勤	週38時間45分	
56	看護師	木下 大介	常勤	週38時間45分	
57	看護師	井上 美咲	常勤	週38時間45分	
58	看護師	諏合 奈津美	常勤	週38時間45分	
59	看護師	福田 真姫	常勤	週38時間45分	
60	看護師	松田 穂華	常勤	週38時間45分	
61	看護師	戸崎 友美	常勤	週38時間45分	
62	看護師	金子 麻里恵	常勤	週38時間45分	
63	看護師	田沢 美久	常勤	週38時間45分	
64	看護師	吉田 貴紀	常勤	週38時間45分	
65	看護師	ベル さゆり	常勤	週38時間45分	
66	看護師	三田 美和子	常勤	週38時間45分	
67	看護師	赤羽 智恵子	常勤	週38時間45分	
68	看護師	平山 明生	常勤	週38時間45分	
69	看護師	伏見 愛子	常勤	週38時間45分	
70	看護師	福田 裕子	常勤	週38時間45分	

71	看護師	佐藤 愛子	常勤	週38時間45分	
72	看護師	樋口 美沙	常勤	週38時間45分	
73	看護師	酒井 利津子	常勤	週38時間45分	
74	看護師	磯 由華利	常勤	週38時間45分	
75	看護師	鈴木 由佳梨	常勤	週38時間45分	
76	看護師	新巻 崇史	常勤	週38時間45分	
77	看護師	鈴木 靖夫	常勤	週38時間45分	
78	看護師	阿久津 茜	常勤	週38時間45分	
79	看護師	秋元 正光	常勤	週38時間45分	
80	看護師	小滝 史脩	常勤	週38時間45分	
81	看護師	森島 佳子	常勤	週38時間45分	
82	看護師	槐 龍也	常勤	週38時間45分	
83	看護師	井澤 昌也	常勤	週38時間45分	
84	看護師	林 泰明	常勤	週38時間45分	
85	看護師	下平 遥	常勤	週38時間45分	
86	看護師	佐藤 匠	常勤	週38時間45分	
87	看護師	小貫 真哉	常勤	週38時間45分	
88	看護師	井上 栞苗	常勤	週38時間45分	
89	看護師	石崎 麗緒奈	常勤	週38時間45分	
90	看護師	山中 萌花	常勤	週38時間45分	

91	看護師	眞田 笑吾	常勤	週38時間45分	
92	看護師	伊藤 裕子	常勤	週38時間45分	
93	看護師	遠藤 千晴	常勤	週38時間45分	
94	看護師	益子 ひろみ	常勤	週38時間45分	
95	看護師	磯 芳雄	常勤	週38時間45分	
96	看護師	橋本 千香子	常勤	週38時間45分	
97	看護師	浅利 圭介	常勤	週38時間45分	
98	看護師	大貫 理史	常勤	週38時間45分	
99	看護師	増淵 敬介	常勤	週38時間45分	
100	看護師	狸塚 花織	常勤	週38時間45分	
101	看護師	高橋 由江	常勤	週38時間45分	
102	看護師	畠田 聖貴	常勤	週38時間45分	
103	看護師	鎌田 久美子	常勤	週38時間45分	
104	看護師	鎌形 美紀	常勤	週38時間45分	
105	看護師	齋藤 菜々子	常勤	週38時間45分	
106	看護師	直篁 大雅	常勤	週38時間45分	
107	看護師	金子 れい	常勤	週38時間45分	
108	看護師	白上 理恵	常勤	週38時間45分	
109	看護師	佐藤 湧斗	常勤	週38時間45分	
110	看護師	湯澤 彩乃	常勤	週38時間45分	

111	看護師	甘利 帆香	常勤	週38時間45分	
112	看護師	島田 貴大	常勤	週38時間45分	
113	看護師	中田 乃彩	常勤	週38時間45分	
114	看護師	平山 夏紀	常勤	週38時間45分	
115	看護師	横井 さとみ	常勤	週38時間45分	
116	准看護師	阿相 秀美	常勤	週38時間45分	
117	看護師	吉成 律子	常勤	週38時間45分	
118	看護師	藤田 明美	常勤	週38時間45分	
119	看護師	鈴木 幸子	常勤	週38時間45分	
120	看護師	矢口 美幸	常勤	週38時間45分	
121	看護師	荒井 久美子	常勤	週38時間45分	
122	看護師	菊池 美智子	常勤	週38時間45分	
123	看護師	野中 早苗	常勤	週38時間45分	
124	看護師	長嶋 恵美	常勤	週38時間45分	
125	看護師	渡辺 登美子	常勤	週38時間45分	
126	看護師	菊池 三奈	常勤	週38時間45分	
127	看護師	磯 みゆき	常勤	週38時間45分	
128	看護師	倉井 優子	常勤	週38時間45分	
129	看護師	新井 奈津子	常勤	週38時間45分	
130	看護師	嶋貫 しのぶ	常勤	週38時間45分	

131	看護師	池田 寿恵	常勤	週38時間45分	
132	看護師	井上 有紀江	常勤	週38時間45分	
133	看護師	前原 祥江	常勤	週38時間45分	
134	看護師	藤田 蘭子	常勤	週38時間45分	
135	看護師	石川 典子	常勤	週38時間45分	
136	看護師	西牧 初美	常勤	週38時間45分	
137	看護師	田中 秀子	常勤	週38時間45分	
138	看護師	村上 栄子	常勤	週38時間45分	
139	看護師	青木 まき子	常勤	週38時間45分	
140	看護師	黒田 信夫	常勤	週38時間45分	
141	看護師	国広 真知子	常勤	週38時間45分	
142	看護師	須田 裕美	常勤	週38時間45分	
143	看護師	菅原 忍	常勤	週38時間45分	
144	看護師	星 晶菜	常勤	週38時間45分	
145	看護師	福井 史子	常勤	週38時間45分	
146	看護師	長山 美奈	常勤	週38時間45分	
147	看護師	武藤 宏子	常勤	週38時間45分	
148	看護師	松本 美里	常勤	週38時間45分	
149	准看護師	阿久津 朋秀	常勤	週38時間45分	
150	看護師	佐藤 照美	常勤	週38時間45分	

2 重症救急患者のための病床の確保状況

優先的に使用できる病床	22床
専用病床	19床

(注) 一般病床以外の病床を含む場合は、病床区分ごとに記載すること。

3 重症救急患者に必要な検査、治療を行うために必要な診療施設の概要

施設名	床面積	設備概要	24時間使用の可否
救命救急センター	466.86㎡	(主な設備) 脳波形 高周波ジェットペンチレーター 全身用高度CTスキャナ 体温自動冷却加温装置 誘発電位検査装置 大動脈バルーンポンプ装置 コードレス移動型X線装置 持続的血液ろ過透析装置 代謝モニター 手術用顕微鏡 デジタル装置 pEEGモニター 連続心拍出量測定装置 自己血回収装置 パノミックX線撮影装置 全自動免疫化学分析装置 全自動PH血液ガス分析装置 多科用ラパロスコピーシステム 人工呼吸器 搬送用人工呼吸器 セントラルモニターシステム 移動用無菌装置 ポリグラフ 電子内視鏡システム シャワー殺菌水装置 頭蓋内測定装置 バースパルスヤグレーザー 非侵襲脳内酸素飽和度監視装置 膜型血漿交換用装置 輸血用血液専用放射線照射装置 ICU診療情報システム 補助循環遠心型血液ポンプ 超音波診断装置 デジタル脳波計 MRI 除細動器 他	可

4 備考

平成10年5月15日付医厚第145号にて救命救急センター指定

(注) 特定の診療科において、重症救急患者の受入体制を確保する場合には、その旨を記載すること。
既に、救急病院等を定める省令（昭和39年厚生省令第8号）に基づき都道府県知事の救急病院の認定を受けている病院、救急医療対策の設備事業について（昭和52年7月6日付け医発第692号厚生省医務局長通知）に基づき救急医療を実施している病院にあっては、その旨を記載すること。

5 救急医療の提供の実績

救急用又は患者輸送自動車により搬入した救急患者の数	3,444人 (2,178人)
上記以外の救急患者の数	6,080人 (2,385人)
合計	9,524人 (4,563人)

(注) それぞれの患者数については、前年度の延べ数を記入すること。

括弧内には、それぞれの患者数のうち入院を要した患者数を記載すること。

6 救急用又は患者輸送用自動車

救急用又は患者輸送用自動車	1台
---------------	----

(第14号様式) 地域医療従事者による診療、研究又は研修のための利用(共同利用)のための体制が整備されていることを証する書類

1 共同利用の実績

コンピューター断層撮影 (CT)	1,060件
磁気共鳴コンピューター断層撮影 (MRI)	1,227件
超音波検査 (乳腺、甲状腺、腹部エコー)	30件
ラジオアイソトープ (RI検査)	10件
IVR (血管造影検査)	0件
共同利用を行った医療機関数	57件
共同利用を行った医療機関延べ数	2,327件
(開設者と直接関係ない医療機関延べ数	2,327件、病床利用率 0%)
病床利用	0件

(注) 前年度において共同利用を行った実績がある場合において、当該前年度の共同利用を行った医療機関の延べ数、これらの医療機関のうち開設者と直接関係のない医療機関の延べ数、共同利用に係る病床の病床利用率を明記すること。

2 共同利用の範囲等

コンピューター断層撮影 (CT)
磁気共鳴コンピューター断層撮影 (MRI)
超音波検査 (乳腺、甲状腺、腹部エコー)
ラジオアイソトープ (RI検査)
IVR (血管造影検査)
図書室
受託検査 (施設及び事業所)
マイタウンホール (多目的ホール)
会議室
開放型病床

(注) 当該病院の建物の全部若しくは一部、設備、器械又は器具のうち、共同利用の対象とする予定のものを明記すること。

3 共同利用の体制

ア 共同利用に関する規定の有無 有 無

イ 利用医師等登録制度の担当者 氏名: 水沼 仁孝

職種: 医師 (放射線診断科部長兼医療社会事業部長)

(注) 共同利用に関する規定が有る場合には、当該規定の写しを添付すること。

処務規程

那須赤十字病院

令和 5年 4月 1日

- ツ 薬物その他の科学的試験及び分析に関すること。
- テ 注射剤調剤及び混合調剤に関すること。
- ト I V Hの混合調剤に関すること。
- ナ 抗悪性腫瘍剤の混合調剤に関すること。
- ニ 特定生物由来製品に関すること。
- 又 酸素、笑気ガス等の管理に関すること。
- (2) 病棟薬剤課
 - ア 薬剤管理指導に関すること。
 - イ 注射薬の配合変化に関すること。
 - ウ 薬物血中濃度に関すること。
 - エ 持参薬に関すること。
 - オ 配薬カートに関すること。
 - カ 病棟在庫薬管理に関すること。
 - キ 緩和医療に関すること。
 - ケ 医療チームに関すること。
- (3) 薬品管理課
 - ア 医療薬品の安全管理に関すること。
 - イ 麻薬の管理及び指導に関すること。
 - ウ 向精神薬の管理及び指導に関すること。
 - エ 毒薬の管理及び指導に関すること。
 - オ 医薬品の在庫に関すること。
 - カ 院内での薬品の適正使用及び指導に関すること。
 - キ 医薬品情報に関すること。
 - ク 薬事委員会に関すること。

第9条 検査部においては、次の業務を分掌する。

- (1) 臨床検査課
 - ア 臨床検査に関すること。
 - イ 一般検査に関すること。
 - ウ 血液学的検査に関すること。
 - エ 生化学的検査に関すること。
 - オ 免疫血清学的検査に関すること。
 - カ 採血に関すること。
 - キ その他、臨床検査に関すること。
- (2) 病理検査課
 - ア 細菌学的検査に関すること。
 - イ 院内感染対策に関すること。
 - ウ 輸血学的検査に関すること。
 - エ 輸血用血液製剤の管理に関すること。
 - オ 病理組織学的検査に関すること。
 - カ 細胞診検査に関すること。
 - キ 病理解剖及び検体処理に関すること。
 - ク 病理標本の管理・保管に関すること。
 - ケ その他、病理検査に関すること。
- (3) 生体検査課
 - カ 生理学的検査に関すること。
 - ク I V Fに関すること。
 - ク その他、臨床検査に関すること。

第10条 医療技術部においては、次の業務を分掌する。

- (1) 栄養課
 - ア 患者食の献立作成及び発注に関すること。
 - イ 特別食の調理及び患者の嗜好調査に関すること。
 - ウ 残飯等衛生管理に関すること。
 - エ 食料資材の出納保管に関すること。
 - オ 栄養委員会に関すること。
 - カ 患者の転入出にともなう食数管理に関すること。
 - キ 調理室、食器類の管理及び清潔保持に関すること。
 - ク 給食材料の検収に関すること。
 - ケ 患者の栄養相談及び指導に関すること。
 - コ 検食及び保存食に関すること。
 - サ その他、給食に関すること。
- (2) 臨床工学技術課
 - ア 医療機器の管理に関すること。

- イ 医療機器の日常の保守点検及び定期点検に関すること。
 - ウ 医療機器の操作、監視に関すること。
 - エ 医療機器の専門的知識及び技術指導に関すること。
 - オ その他、医療機器の運用全般に関すること。
- (3) 臨床心理課
- ア 患者心理への介入（カウンセリング）に関すること。
 - イ 心理・精神的問題を有する患者への受診援助に関すること。
 - ウ 医療スタッフへ対するメンタルサポート及び教育に関すること。
 - エ 緩和医療に関すること。
 - オ 前各号のほか、心理に関すること。

第11条 看護部においては、次の業務を分掌する。

- (1) 患者の看護、新生児の介補及び診療の介助に関すること。
- (2) 看護職員の配置、勤務交代等看護体制に関すること。
- (3) 看護基準及び看護手順に関すること。
- (4) 看護技術の指導、調査、研究及び改善に関すること。
- (5) 患者の食事の世話に関すること。
- (6) 病棟、手術室、分娩室、人工透析室及び中央材料室の管理に関すること。
- (7) 看護日誌その他看護に関する諸記録に関すること。
- (8) 看護用具の研究及び改善に関すること。
- (9) 看護職員の教育に関すること。
- (10) 託児所、休養室及び更衣室の管理に関すること。
- (11) 看護学生の実習指導に関すること。
- (12) 前各号のほか、看護に関すること。

第12条 医療社会事業部においては、次の業務を分掌する。

- (1) 医療福祉連携課（患者サポートセンター）
 - ア 医療ソーシャルワークの対象者の調査及び発見に関すること。
 - イ 医療をはじめ、医療スタッフ等の連絡及び関係資料の提供に関すること。
 - ウ 患者の診療及び療養生活の適応に必要なソーシャルワーク業務に関すること。
 - エ 患者の家族に対するソーシャルワーク業務及び家庭訪問に関すること。
 - オ 患者の退院の社会復帰に伴うソーシャルワーク業務及び訪問活動に関すること。
 - カ 在宅ケア・デイケアに関するソーシャルワーク業務に関すること。
 - キ 公的扶助等社会福祉関係法の利用の援助に関すること。
 - ク 診療費の減免、その他法外援助の実施に関すること。
 - ケ 社会福祉事務所その他関係機関及び団体との連絡調整に関すること。
 - コ 献体事務に関すること。
 - サ その他、医療ソーシャルワークに関すること。
 - シ がん対策推進業務に関すること。
 - ス がん相談業務に関すること。
 - セ 電話相談業務に関すること。
 - ソ 来院者の健康相談業務に関すること。
 - タ 窓口での受診科相談業務に関すること。
 - チ 入院患者及び入院予定患者の相談業務に関すること。
 - ツ 退院患者及び退院予定患者の相談業務に関すること。
 - テ 救命救急センターの受付及び事務に関すること。
 - ト その他入退院患者の支援に関すること。
- (2) 社会課
 - ア 災害時等における医療救護の計画及び実施に関すること。
 - イ 巡回診療・出張診療及び医療相談に関すること。
 - ウ 老人保健法に基づく保健事業の協力に関すること。
 - エ 訪問看護、継続看護、老人デイケア等の実施に関すること。
 - オ 事業の推進にともなう支部との連絡調整に関すること。
 - カ 国及び地方自治体が行う衛生思想の普及向上のための社会的行事への協力に関すること。
 - キ 募金に関すること。
 - ク ボランティアの受入れ等奉仕活動の指導、協力及び連絡調整に関すること。
 - ケ 救命救急センターの受付及び事務に関すること。
 - コ その他の一般住民及び患者へのサービスに関すること。

第13条 健診部においては、次の業務を分掌する。

- (1) 健診課
 - ア 地域、事業所、その他団体等一般を対象にして行う集団健診、成人健診及び健康相談に関すること。

画像診断機器運用規定（院外依頼）

【運用機器範囲】

・ CT ・ MRI ・ RI ・ 超音波 ・ IVR

【運用時間】

日曜祝祭日、第2・第4・第5土曜日を除く毎日

9：00－10：30

13：30－16：00 （但し、土曜日は9：00－11：00）

予約受付は、平日8：30－16：45 第1・3土曜日は、8：30－12：30

電話：0287-23-9777（地域医療福祉連携課）

【運用時のお願い】

- 緊急時を含め、電話又はFAXにより「地域医療福祉連携課」にて事前予約をお願いいたします。
- 当日来院時、放射線科あてに「診療情報提供書」を発行し持参頂きますようお願いいたします。
- 造影剤使用の可能性については事前に依頼診療所・病院から説明頂き、患者さんの来院時に造影剤の説明とチェックリストのチェックを当院担当者が行ないます。造影剤のアレルギー情報等あれば事前に情報提供をお願いいたします。
- 患者さんは当院放射線科専門医の問診を受けて頂きます。
- 撮影後はフィルム又はCD-Rを患者さんにお渡しし、依頼診療所・病院に持参して頂きます。
- 画像診断の結果は、原則当日FAXにて依頼元診療所・病院に送信させて頂きます。
- 患者さんへの説明は、依頼元診療所・病院にてお願いいたします。
- 帰宅後の造影剤アレルギー反応の出現時は、原則的に依頼元診療所・病院にてお願いいたします。対応不可の場合には、当院にご連絡願います。
- 画像診断により、緊急的に治療の必要性が認められた場合には、当院にて治療を開始する旨を当院放射線科担当医師より依頼元診療所・病院に報告させて頂きます。

院外依頼画像診断手順

1、依頼診療所・病院 → 連携課に TEL (0287-23-9777) (下記①②③)

① 依頼検査項目および部位をお伝えください。

CT・MRI・シンチ・エコー・マンモグラフィー・冠動脈 CTA など

② 患者氏名・生年月日・電話番号など基礎情報をお伝えください。

・シンチグラムは、目的により曜日の指定あり

* 他の項目については連携課にて確認調整を行ないます。

③ 希望日（時間調整は、予約状況に応じて対応）をお伝えください。

2、連携課 → 依頼診療所・病院に FAX (下記④⑤)

④ 検査予約票

⑤ 患者情報記入用紙

3、依頼診療所・病院 → 連携課に FAX (0287-23-9991)

⑤に必要事項を記入し、患者さんの同意を得て FAX 願います。

* 事前に⑤の情報にてカルテを準備し速やかに検査にご案内します。

4、予約当日患者来院 2 番カウンターにて受付 → オリエンテーション後、放射線科へご案内、検査実施

依頼診療所・病院からの診療情報提供書を確認し、患者氏名・依頼元・検査内容を照合します。

⑥「造影剤使用に関する質問項目」を確認

*オリエンテーション内容（検査実施の流れおよび造影剤使用に関する注意事項など）

5、検査終了後、フィルム又は CD-R を患者さんにお渡しし、次回診察時持参することを説明します

6、那須日赤放射線科 → 依頼診療所・病院に FAX (下記⑦)

撮影が終了次第放射線科診断部にて読影、画像診断を行ないます。

⑦画像診断結果作成

⑧画像データ（フィルム・CD-R）は、依頼元データとして患者さんが依頼診療所・病院に持参します。

7、依頼診療所・病院にて患者診察時画像診断の結果を説明願います

那須赤十字病院開放型病床運営規程

第1条（目的）

この規程は、那須赤十字病院（以下「病院」という。）内に開放型病床を設置し、病院担当医師（以下「主治医」という。）と地域の医師または歯科医師が互いの情報を共有することにより、患者に対する確かな医療ならびに地域完結型医療を提供することを目的とする。

第2条（開放型病床の設置）

病院は、一般病床の中から5床を開放型病床として設置する。

- 2 毎朝8時30分に5床を確保する。

第3条（利用について）

地域の医師または歯科医師が、病院の地域医療福祉連携課に電話にて申し込む。

- 2 申し込みは平日の8時30分から17時30分までとする。

（第2・第4・第5土曜日、祝祭日、7月1日、12月29日から1月3日を除く）

第4条（診療）

地域の医師または歯科医師は、患者の診療等を主治医と共同で行うものとする。

- 2 患者の退院決定についても共同で行うものとする。
- 3 地域の医師または歯科医師が共同診療を行う場合は、あらかじめ主治医との日程調整を行わなければならない。

第5条（診療責任）

開放型病床に入院中の患者の管理は、病院の責任において行うものとする。

第6条（その他）

この規定の運営ならびに改定については、那須赤十字病院地域医療支援連絡会にて協議を行うものとする。

付則 この規定は平成24年7月1日より実施する。

平成26年3月1日 一部改定「開庁日追加」 第3条2項「第5土曜日を追加」

4 登録医療機関の名簿

医療機関名	開設者名	住 所	主たる診療科名
青柳医院	青柳 直大	大田原市中央2-1-2	内、小、皮、泌
赤羽医院	赤羽 正史	大田原市城山2-5-29	内、小、外、整外、皮、泌、肛
あさかクリニック	若江 恵利子	大田原市浅香3-3711	内、小、外、整外
阿部内科	阿部 好一朗	大田原市佐久山2018	内、消、循、小、皮
せいいかいメディカルクリニックNASU	菅生 太朗	大田原市町島200-8	内、循内、他
磯医院	磯 政裕	大田原市黒羽向町8	内、消、胃、外、小
井上眼科医院	井上 直紀	大田原市山の手1-2-11	眼
江部医院	江部 寛	大田原市黒羽向町60	内、神内、消、循、小、リハ
大田原中央クリニック	八代 忍	大田原市中央1-3-15	整外、漢内、リハ
介護老人保健施設 椿寿荘	石倉 義彌	大田原市末広1-2-5	
鎌田浅香医院	鎌田 美樹雄	大田原市浅香3-3578	内、消内、循内、小、皮、神内
河島クリニック	河島 俊文	大田原市中央2-9-32	内、消内、外、肛、
木戸内科クリニック	木戸 幸一	大田原市美原2-2831-153	内、小
車田医院	車田 宏之	大田原市大豆田457-24	内、小
くろばね齋藤醫院	齋藤 暁美	大田原市黒羽田町612	内、循、小
国際医療福祉大学クリニック	鈴木 元	大田原市北金丸2600-6	内、精、整外、耳、リハ、齒、小齒、齒口
小林内科外科医院	小林 伸久	大田原市富士見1-16	内、耳、消内、他
齊藤内科医院	木曾 一誠	大田原市新富町3-4-18	内、呼内、循内、消内、腎内、外、泌内、他
だいなリハビリクリニック	近藤 健	大田原市紫塚3-2633-10	内、整外、リハ、形外
高久内科医院	高久 多希朗	大田原市中田原773-8	内、呼内
なすのがはらクリニック	高橋 貞夫	大田原市滝沢355	内、消、ア、小
高橋外科医院	高橋 敏	大田原市住吉町1-11-20	内、外、整外、呼内、循内、胃内、肛外、泌、漢内、性内、ア
高山クリニック	高山 五郎	大田原市本町1-2703-182	形外、皮
那須中央病院	臼井 健夫	大田原市下石上1453	内、神内、呼内、消内、循内、血、ア、リ、小、外、整外、形外、脳外、呼外、消外、乳、肛皮、リハ、麻、齒、矯齒、齒口他

なす療育園	下泉 秀夫	大田原市北金丸2600-7	内、小、整外、リハ、歯、他
野崎皮膚科	野崎 重之	大田原市末広3-3004-2	皮
橋本内科クリニック	橋本 憲一	大田原市元町1-2-14	内、呼、小
原眼科医院	原 裕	大田原市末広1-5-27	眼
藤田医院	藤田 茂信	大田原市野崎2-7-14	内、胃、外、肛
益子医院	十河 寛	大田原市大久保266	内、呼、胃、循
益子クリニック	益子 仁	大田原市黒羽田町827	内、呼
増山医院（小滝）	増山 茂樹	大田原市小滝1107-6	内、ア、小、外
増山医院（佐良土）	増山 伸夫	大田原市佐良土861	内、循、ア、小、皮
増山胃腸科クリニック	増山 仁徳	大田原市加治屋83-413	内、消
松井医院	松井 秀雄	大田原市城山1-2-3	内、消
室井病院	室井 尚武	大田原市末広1-2-5	内、精、心内、消内、循内
吉成小児科	吉成 仁見	大田原市新富町2-1-22	小
阿久津整形外科	阿久津 政司	那須塩原市永田町3-16	内、リ、外、整外、リハ
石塚産婦人科医院	郡山 智	那須塩原市三島2-14-9	産婦
いしばし眼科	石橋 生朗	那須塩原市睦146-12	眼
大島内科小児科医院	大島 健一	那須塩原市錦町4-20	内、呼、消、循、小、皮
大原クリニック	大原 栄	那須塩原市東三島3-67	内、小、眼、耳
尾形クリニック那須	米田 尚弘	那須塩原市沓掛2-10-3	内 他
金澤医院	金澤 正邦	那須塩原市中央町1-8	内、消、循、小
菅間記念病院	竹内 丙午	那須塩原市大黒町2-5	内、神内、呼内、消内、循内 外、整外、脳外、小、皮、泌、 性、肛、婦、耳、リハ、放、麻 歯、小歯、歯口、他
きくち内科クリニック	菊地 紀明	那須塩原市下田町531-130	内
北整形外科内科	北 貞夫	那須塩原市三島4-26-2	内、循、リ、外、整外、リハ
黒磯病院	福富 京	那須塩原市高砂町3-5	内、胃、小、外、整外、肛
国際医療福祉大学病院	大和田 倫孝	那須塩原市井口537-3	内、心内、精、神内、呼内、消 内、循内、ア膠、糖、腎、小、 整外、形外、脳外、呼外、消外 循外、美外、乳、皮、肛、泌、 産婦、眼、耳、リハ、放、麻、 歯口、心外、他
小関整形外科	小関 邦彦	那須塩原市扇町12-12	整外、リハ
小沼内科胃腸科クリニック	小沼 一郎	那須塩原市西朝日町6-42	内、胃、小

さいとうクリニック	齋藤 茂子	那須塩原市西幸町7-13	内、小、麻
佐藤医院	佐藤 嗣人	那須塩原市西栄町7-16	内、小、皮
しんたくレディースクリニック	新宅 芳行	那須塩原市方京1-7-3	産、婦
高澤クリニック	高澤 泉	那須塩原市緑1-8-472	内、外、肛、他
滝田メディカルクリニック	滝田 雅仁	那須塩原市本町9-26	内、胃、外、皮、泌、肛
栃木県医師会塩原温泉病院	森山 俊男	那須塩原市塩原 1 3 3 3	内、神内、リ、整外、リハ、他
那須あいクリニック	久光 愛	那須塩原市杓掛3-12-2	整
那須高原クリニック	佐藤 英智	那須塩原市唐杉31-2	内、呼、ア、リ、小、整外
那須こころの医院	石川 純一	那須塩原市方京1-16-2	心内、精
なすこどもクリニック	福田 啓伸	那須塩原市杓掛2-19-1	小、ア
那須脳神経外科病院	深町 彰	那須塩原市野間 4 5 3 - 1 4	内、神内、循内、脳外、リハ、放
なすのクリニック	渡邊 敏郎	那須塩原市共墾社83-24	内、糖内、消内、循内、整外、リハ
那須訪問診療所	菊地 章弘	那須塩原市豊浦10-706	訪
西那須野内科循環器科クリニック	鈴木 明裕	那須塩原市永田町7-13	内、呼、循
はらくクリニック	原 孝志	那須塩原市東三島4-54-7	内、胃、外
福島整形外科病院	福嶋 稔	那須塩原市弥生町 1 - 1 0	整外、リハ
ふくだ内科クリニック	福田 裕昭	那須塩原市新町115-3	内、消内
ふじおか内科小児科	藤岡 隆庸	那須塩原市豊浦93-15	内、小
藤田産婦人科医院	藤田 健一	那須塩原市宮町5-19	内、外、産婦人
ぽっぽクリニック	赤羽 磨行	須塩原市石林666-10	内、外
ふみの耳鼻咽喉科クリニック	田沼 文	那須塩原市杓掛1-11-5	耳
ブリヂストン栃木診療所	楡木 恵実子	那須塩原市上中野10	内、泌
みずぬまクリニック	水沼 裕光	那須塩原市東三島2-80-6	内、呼、循、小
みどりクリニック	橋本 俊久	那須塩原市一区町160-1	内、呼、消、胃、循、小、外、整外、皮、泌、眼、耳、リハ、放、麻
緑の杜クリニック	木平 健	那須塩原市大原間西1-6-7	内、消、ア、皮
三森医院	三森 薫	那須塩原市宮町1-19	内、呼、胃、循、小、外、皮、放
宗形医院	宗形 光敏	那須塩原市弥生町9-16	内、小

渡部医院	渡部 恭子	那須塩原市大原間140-1	内、呼、消、循、小、皮、泌性、放
河島医院	河島 弘文	那須町伊王野1503	内、ア、小
塩田医院	塩田 章人	那須町寺子丙1-14	内、呼、消、胃、循、皮泌
田崎医院	田崎 洋太郎	那須町寺子丙1	内、消内、循内、小、外、皮泌、産婦
立花医院	立花 隆司	那須町寺子乙3967-190	内、消、小
あしのメディカルクリニック	塚原 純雄	那須町寺子丙1-397	内、外、整外、皮、放、麻
那須高原病院	高野 謙二	那須町高久甲375	内、精、神、神内、呼、循、皮
見川医院	見川 泰岳	那須町湯本212	内、心内、精、神、小
もみの木医院	川口 幸夫	那須町高久丙1195-701	内、消、循、ア、小、皮、放
上田医院	上田 明彦	矢板市末広町32-2	内、消、循、整外、リハ
尾形クリニック	尾形 享一	矢板市末広町45-3	内、呼、消、循、外、整外、泌リハ、放
かるべ皮フ科小児科医院	軽部 敏昭	矢板市木幡1324	小、皮
きうち産婦人科医院	山田 哲夫	矢板市富田548-1	産婦
国際医療福祉大学塩谷病院	須田 康文	矢板市富田77	内、神内、呼内、消内、循内、血、小、外、整外、脳外、消外
後藤医院	後藤 哲郎	矢板市末広町63-9	内、小
佐藤病院	佐藤 勇人	矢板市土屋18	内、精、皮
西川整形外科	西川 晋介	矢板市乙畑1453-3	神、リ、外、整外、リハ
橋本医院	橋本 敬	矢板市泉377-5	内、消内
村井医院	村井 信之	矢板市扇町1-10-28	ア、耳、気、リハ
村井胃腸科外科クリニック	村井 成之	矢板市木幡1308-20	内、消内、循内、外、整外、消外、小外、皮、泌、肛、耳、気外、リハ、放、他
矢板南病院	塚本 俊彦	矢板市乙畑1735-9	内、外、皮、麻、整外、他
谷仲医院	谷仲 昭夫	矢板市片岡2096-84	内、小、外、皮、産、放
山田クリニック	山田 聡	矢板市片岡2146-3	内、胃、小
氏家病院	松村 茂	さくら市向河原4095	内、精、神、消、麻、歯
岡医院	岡 一雄	さくら市桜野9280-8	内、小、循
かとう眼科	加藤 健	さくら市氏家2565-9	眼
黒須病院	手塚 幹雄	さくら市氏家2650	内、神内、呼、消、胃、循、外整外、脳外、呼外、小、皮、泌リハ、放、麻

小林医院	小林 正樹	さくら市喜連川4347-2	内、呼、消、循、小
さくら産院	立崎 理香	さくら市氏家2190-5	内、婦、産
佐藤クリニック	佐藤 泉	さくら市卯の里1-17-1	内
佐野医院	佐野 哲郎	さくら市喜連川4413	内、呼、消、小、外、整外
高瀬小児科医院	中澤 博子	さくら市氏家1916	内、小、皮
仲嶋医院	仲嶋 秀文	さくら市氏家3245-17	内、消、循、小
にし内科ハートクリニック	西 悠	さくら市氏家3390-5	内、循
花塚クリニック	花塚 和伸	さくら市喜連川841-1	内、消内、他
檜山医院	檜山 清水	さくら市桜野1220	内、小、皮
阿久津クリニック	阿久津 昌子	那須烏山市金井2-1-6	内、消、外、整外、皮
近藤クリニック	近藤 克昭	那須烏山市野上637-2	内、呼、消、循、小
塩谷医院	塩谷 眞悦	那須烏山市田野倉183	内、外
那須南病院	宮澤 保春	那須烏山市中央3-2-13	内、神内、循内、小、胃、循外 整外、脳外、呼外、小
那須烏山市熊田診療所	有我 直宏	那須烏山市熊田555	内、外
那須烏山市国民健康保険七合診療所	本間 真二郎	那須烏山市中山137	内、小
烏山台病院	杉浦 啓太	那須烏山市滝田	内、精、神、循
水沼医院	水沼 洋文	那須烏山市金井1-14-8	内、消、小、外、整外、皮
山野クリニック	山野 和成	那須烏山市中央2-4-3	内、神内、循
大和田内科	大和田 信雄	塩谷町道下807-1	内、循内、心内、糖内、代内、 内分内
風見診療所	小島 崇	塩谷町上平27	内、小、外
阿久津医院	阿久津 博美	高根沢町大谷176-1	内、消内、循内、小、外
小林内科医院	小林 祐一郎	高根沢町宝積寺2261-23	内、呼、消、循、小
谷口医院	谷口 雄一	高根沢町宝積寺1038	内、心内、精、小、皮、美皮、 産婦
中津川循環器科内科クリニック	中津川 昌利	高根沢町宝積寺2388-5	内、呼、循、ア、小
深澤クリニック	深澤 孝夫	高根沢町平田1920-1	内、心内、神、循、ア、リ、小 整外、皮、麻、他
まなか医院	廣木 昭彦	高根沢町石末2093-10	内、ア、リ、小、外、整外、皮 リハ

高根沢中央病院	青木 洋	高根沢町光陽台3-16-1	内、呼、消、胃、循、ア、外、 整外、呼外、皮、肛、リハ、放
飯塚医院	木村 透	那珂川町馬頭484-3	内、皮、小
上野医院	上野 顕	那珂川町小川700	内、胃、循、小
坂本クリニック	坂本 修一	那珂川町北向田187	内、外、皮、泌
佐藤医院	佐藤 充	那珂川町小川2960-1	内、小
白寄医院	杉本 美幸	那珂川町馬頭464-1	内、外
高野病院	高野 和彦	那珂川町馬頭2068	内、神内、小、外、整外、皮、 眼、耳、リハ、放
印南歯科医院	印南 等	矢板市富田556-5	歯、矯歯、小歯
阿久津歯科医院	阿久津 透一	矢板市末広町13-11	歯、矯歯、小歯、歯口
林歯科医院	林 達	那須塩原市712-5	歯
石川歯科医院	石川 俊一郎	那須烏山市金井1-8-4	歯、矯歯、小歯、歯口
わたなべけいこ歯科	渡邊 佳子	矢板市上町657	歯、矯歯、小歯、歯口

注 当該病院と同一の2次医療圏に所在する医療機関のみ記入すること。

(第15号様式) 地域医療従事者の資質の向上を図るための研修を行わせる能力を有することの証明

1 研修の内容

別紙参照

2 研修の実績

(1) 地域の医療従事者への実施回数	14回
(2) (1) の合計研修者数	147人

(注) 1 研修には、当該病院以外の地域の医療従事者が含まれるものを記入すること。

(注) 2 (2) には、前年度の研修生の実数を記入すること。

3 研修の体制

- ア 研修プログラムの有無 有・無
イ 研修委員会設置の有無 有・無
ウ 研修指導者

研修指導者氏名	職 種	診療科	役 職 等	臨床経験数	特 記 事 項
井上 晃男	医師	内科	病院長	41年	
白石 悟	医師	産婦人科	統括顧問	43年	
阿久津 郁夫	医師	内科	副院長	39年	教育責任者
佐藤 隆	医師	内科	副院長	36年	
田村 光	医師	外科	副院長	34年	
崎尾 浩由	医師	内科	第二内科部長	25年	
福島 史哉	医師	内科	第三内科部長	26年	
池野 義彦	医師	内科	リウマチ科部長	25年	

伊藤 雅史	医師	内科	脳神経内科部長	25年	
小林 洋行	医師	内科	血液内科部長	20年	
景山 倫也	医師	内科	循環器内科部長	18年	
大口 真寿	医師	内科	腎臓内科部長	30年	
吉田 徹	医師	内科	第一内科副部長	23年	
小泉 諭	医師	内科	第二内科副部長	14年	
町田 安孝	医師	内科	第三内科副部長	14年	
田宮 千知	医師	内科	呼吸器内科副部長	18年	
新井 由季	医師	内科	消化器内科副部長	20年	
篠原 安武	医師	内科	糖尿病・内分泌内科副部長	9年	
石井 純平	医師	小児科	第一小児科部長	12年	
小川 美織	医師	小児科	第一小児科副部長	11年	
小島 正夫	医師	外科	手術部長	46年	
城戸 啓	医師	外科	第三外科部長	24年	
青木 真彦	医師	外科	第四外科部長	24年	
五十嵐 高広	医師	外科	第五外科部長	19年	
川口 英之	医師	外科	第一外科副部長	14年	
石井 智	医師	外科	第二外科副部長	16年	
吉田 祐文	医師	リハビリテーション科	リハビリテーション科部長	34年	
菊地 陽	医師	形成外科	形成外科副部長	7年	
竹内 大作	医師	整形外科	第一整形外科部長	24年	
吉川 勝久	医師	整形外科	整形外科副部長	19年	
荒川 明子	医師	脳神経外科	第一脳神経外科部長	12年	
深谷 春介	医師	脳神経外科	第二脳神経外科部長	18年	
神原 常仁	医師	泌尿器科	第一泌尿器科部長	24年	
水野 智弥	医師	泌尿器科	第二泌尿器科部長	22年	
柿沼 宏幸	医師	麻酔科	第一麻酔科部長	26年	
田中 禎一	医師	麻酔科	第二麻酔科部長	31年	
長谷川 伸之	医師	検査部	検査部長	37年	
梅津 英央	医師	呼吸器外科	第二呼吸器外科部長	27年	
酒井 瑞乃	医師	耳鼻咽喉科	耳鼻咽喉科副部長	16年	
林 堅二	医師	救急科	救命救急センター長	26年	
木多 秀彰	医師	救急科	救急集中治療部長	43年	
水沼 仁孝	医師	放射線科	放射線科部長	43年	
砂川 好光	医師	放射線科	放射線治療科部長	35年	

伊藤 弘人	医師	歯科口腔外科	歯科口腔外科部長	30年	
宮城 徳人	医師	歯科口腔外科	第二歯科口腔外科部長	22年	

(注) 教育責任者については、特記事項欄にその旨を記載すること。

研修実施のための施設及び設備の概要

施設名	床面積	設備概要(主な設備)
シミュレータールーム	26.87㎡	電子カルテ用パソコン インターネット接続環境
マイタウンホール	246.45㎡	プロジェクター、音響設備一式 エリア監視カメラ
カンファレンス室	51.67㎡	電子カルテ用パソコン、 インターネット接続環境 テレビモニター移動式
会議室1	21.58㎡	電子カルテ用パソコン、 インターネット接続環境 テレビモニター移動式
会議室2	20.94㎡	電子カルテ用パソコン、 インターネット接続環境 テレビモニター移動式
会議室3	24.38㎡	電子カルテ用パソコン、 インターネット接続環境 テレビモニター移動式
会議室4	23.50㎡	電子カルテ用パソコン、 インターネット接続環境 テレビモニター移動式
会議室5	23.50㎡	電子カルテ用パソコン、 インターネット接続環境 テレビモニター移動式
会議室6	23.50㎡	電子カルテ用パソコン、 インターネット接続環境 テレビモニター移動式
会議室7	23.50㎡	電子カルテ用パソコン、 インターネット接続環境 テレビモニター移動式
オペレーター訓練室	47.00㎡	電子カルテ用パソコン インターネット接続環境
図書室	51.79㎡	コピー機1台、ファクシミリ1台 パソコン5台(電子カルテ用パソコン含) インターネット接続環境 移動スライド式書架
研修医室	21.27㎡	電子カルテ用パソコン インターネット接続環境
救命救急センター	466.86㎡	脳波計、誘発電位検査装置、 コードレス移動型X線装置、代謝モニター 手術用顕微鏡、デジタルシネ装置、 pEEGモニター、搬送用人工呼吸器、 超音波診断装置、 セントラルモニターシステム デジタル脳波計、除細動器など

(第16号様式) 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法

管理責任者氏名	病院長 井上 晃男
管理担当者氏名	事務部長 唐橋 正弘

		保管場所	分類方法
診療に関する諸記録	病院日誌	総務課	1年単位でファイルし倉庫保管
	病棟日誌	各病棟	1年単位でファイルし倉庫保管
	処方箋	薬剤部	各病棟1日分を纏め、薬剤部で月単位で倉庫保管
	手術記録	診療支援課	電子カルテ内保管
	看護記録	診療支援課	電子カルテ内保管
	検査所見記録	診療支援課	電子カルテ内保管
	エックス線写真	放射線科	フィルムレス、サーバー内保管
	紹介状	診療支援課	スキャンにて電子カルテ内保管 原本は1日単位で纏め倉庫に保管
	患者退院に関わる入院期間中の診療経過の要約	診療支援課	電子カルテ内保管
病院の管理及び運営に関する諸記録	共同利用の実績	地域医療福祉連携課	/
	救急医療の提供の実績	医事課	
	地域の医療従事者の資質の向上を図るための研修の実績	地域医療福祉連携課	
	閲覧実績	診療支援課	
	紹介患者に対する医療提供及び他の病院又は診療所に対する患者紹介の実績の数を明らかにする帳簿	地域医療福祉連携課	

(注) 「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。

(第17号様式) 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

閲覧責任者氏名	地域医療福祉連携課 課長 伊藤 健一 診療支援課 課長 高橋 美千夫
閲覧担当者氏名	地域医療福祉連携課 課長 伊藤 健一
閲覧の求めに応じる場所	患者サポートセンター内 相談室
<p>閲覧の手続の概要</p> <p>閲覧を希望申し出⇒</p> <p>① 地域医療福祉連携課</p> <ul style="list-style-type: none"> *閲覧可能である職種であることを確認 *閲覧範囲と目的を確認 *閲覧希望日の確認 <p>② 地域医療福祉連携課内閲覧担当者は、閲覧書類管理部門長に報告、必要書類を準備</p> <p>③ 閲覧当日、本人確認の上「患者サポートセンター内 相談室」に案内、閲覧</p> <p>④ 閲覧終了後、閲覧実施記録を残す</p>	

前年度の総閲覧件数		0件
閲覧者別	医師	0件
	歯科医師	0件
	地方公共団体	0件
	その他	0件

(第18号様式) 委員会の開催の実績

委員会の開催回数	4回	
委員会における議論の概要		
<p>○令和4年度第1回那須赤十字病院地域医療支援連絡会 日時：令和4年4月19日（火）19時00分～ 場所：那須赤十字病院 マイタウンホール 出席者：院外委員 院内委員 事務局</p> <p>○令和4年度第2回那須赤十字病院地域医療支援連絡会 日時：令和4年7月26日（火）19時00分～ 場所：那須赤十字病院 マイタウンホール 出席者：院外委員 院内委員 事務局</p> <p>○令和4年度第3回那須赤十字病院地域医療支援連絡会 日時：令和4年10月18日（火）19時00分～ 場所：那須赤十字病院 マイタウンホール 出席者：院外委員 院内委員 事務局</p> <p>○令和4年度第4回那須赤十字病院地域医療支援連絡会 日時：令和5年1月17日（火）19時00分～ 場所：那須赤十字病院 マイタウンホール 出席者：院外委員 院内委員 事務局</p>		

(注) 委員会の開催回数及び議論の概要については、前年度のものを記載すること。

結んでいただいた先生の1人でございます。その先生が日赤の院長になられたという事で非常に喜ばしい事だと思っております。きっとこの地域の救急医療に関しても井上先生は獨協医科大学病院で病診連携の一番のキーパーソンになってやっておられましたので、きっと良い病診連携で救急医療を作り上げてくれるのではないかという風に期待して、私から井上先生へのご挨拶とさせていただきます。どうもありがとうございました。

伊藤

- 小沼先生ありがとうございました。続きまして病院長の井上より皆様へご挨拶があります。よろしくお願いします。

1-② 那須赤十字病院 院長 井上 晃男

- 皆さんこんばんは。改めまして4月より当院に院長として赴任して参りました。井上 晃男と申します。よろしくお願い致します。小沼先生から過言なお褒めのお言葉をいただきましたが、ご紹介して介いただいたように、私は前任地の獨協医科大学病院で、地域連携患者サポートセンター、連携部門の責任者をさせていただいております。私なりの方法で様々な地域連携、病院連携、病診連携、或いは多職種に対して独自のネットワークを構築してまいりました。その中で私の連携に対する想いというのはやはり、「顔の見える連携」です。ですから、この会もコロナ渦等で中々かつてのようなやり方では出来ないという事情があるかとは思いますが、コロナ渦が終息しましたら地域の大勢の先生方に集まっていただいて、とにかく「顔の見える連携」というのをしたいという事です。「顔の見える連携」とは一体何なのかという事になる訳ですが、例えば顔の見えない典型は紹介状ベースの連携、しかも紹介状が今では診療情報提供書という無味乾燥な日本語が付いており、私自身は紹介状という呼び名の方がまだ好きでした。勿論、紙ベースの紹介状では相手方の人となりが分からないので、事務的な内容で終わってしまいます。それはそれで事務的には済むのですが、これでは連携にはなっておりませんので事務的な内容で終わってしまいます。「せめて顔が見えなくても声が聞きたい。」という事で、私自身、心臓血管内科で外来を担当していた際に、私宛に紹介状を下された方、初めて紹介して下さった先生方に関しては直接お電話をして、先方がお忙しいのはよく分かっていますが、「お忙しいところ大変申し訳ない。」という事で電話口に出ていただいて、「紹介された・・・の内容の患者さんが今日来院しました。責任を持って拝見させていただきます。ご紹介ありがとうございました。」というような、「声」でコミュニケーションをとるといった事を次に行いました。やはり、なんととっても「顔の見える連携」です。私は出来る限り地域の先生方で病院の病医（医療連携）のネットワークに加わっていただいた病院には、直接私自身が訪問して院内を隈なく見学させていただいたり、地域のクリニックの先生方のところに対しても出来る限り直接足を運びました。今回ご縁があり、この県北に着任する事になった訳ですが、栃木県の医療、こと循環器に関して言いますと栃木県自体が全国レベルと比較すると非常に遅れています。その中の県内でも地域間格差があり県北はその中でも送れていると言わざるを得ない状況。そこで、学長名で何年か前に私の居た心臓血管内科講座からチームにてこちらに精鋭を派遣を致しまして、先ほど小沼先生がおっしゃられた、獨協の私共の教室、獨協医科大学病院の心臓血管内科のマインドであります「絶対に患者を断らない」。例えば、胸痛と聞いた場合でも色々な胸痛があります。「チクチク痛い」のであれば肋間神経痛であるでしょうし、詳しく診てみたら逆流性食道炎だったりします。その際に殆どの循環器の医者はどんな胸痛かなのか、或いは心電図はどのようなかを聞いてきます。それを答えている間に何秒間か何分間が過ぎてしまいます。心筋梗塞というのはそれが命取りになります。ですから、私共は胸痛と聞いただけでも「どんな胸痛でも

井上

受ける]という姿勢で行っていました。そうすると、10人居れば本当の心筋梗塞、狭心症が1人居るか居ないか、それでも良いんです。そうやって救っていくんです。残りの肋間神経痛、逆流性食道炎と数多くの専門医は自分達の領域でなければ後は知らないというところですが、私共は逆流性食道炎等は同じ院内の専門医にお渡し致します。或いは肋間神経痛は何の心配も無いという方、医学的には何の問題が無くても患者にとっては苦痛の時もあります。そういった方々も丁重にして肋間神経痛であっても疎かにしない。ちゃんと患者さんが満足してお帰りいただくようにするという事を目標に頑張ってもらいます。先ほどホットラインの話も出ましたが、ホットラインも単に胸痛だけのものではありません。例えば地域の先生方が、たまたま心電図を実施した際、明らかに異常があれば当然専門医に送る訳ですが、異常とも正常ともとれない少し迷うようなケースがあった場合には、その心電図をホットラインでご連絡をいただいて心電図のファックスを送ってもらいます。その結果で、「大丈夫等」等の内容でお答えをします。電話で心配事の相談も受けるというスタンスで、ホットラインを運用しております。病院には大勢の医者が居ますので、中にはホットラインの運営にあまり協力的ではないような、或いはポジティブではないような医師も居ますが、そういった医師は病院に居ても仕方がない事ですし非難するつもりはありませんが、ホットラインに関してはポジティブに考えている医師だけに、ホットラインを持たせるというそういった想いで運営してまいりました。それが私が目指していた連携であります。そういった意味では当院に赴任してから、この連携といった方面では多少なりともお役に立てるのではないかと考えております。また、赴任して思ったのですが、病院長としてのその他あらゆるが業務が多々あるため本当に目が回る思いであります。まだまだ弱い点は多々あり、医療安全、コロナ感染等もありますが感染症等は全く弱いです。幸い当院には医療安全では佐藤副院長、感染症では阿久津副院長という強い味方がおりますので、両先生のご指導をいただきながら何とか頑張って院長業務を全うしていきたいと考えております。この地域の連携がますます強化、県北が栃木県の中でも[連携のモデル地域]になるというようなものを目指していきたいと思っておりますので、皆様方どうぞお願い致します。

- ありがとうございます。続きまして、本会は今年度第1回目の開催になりますので代表して出席状況並びに皆様のご紹介をしたいと思います。(会員名簿参照)

伊藤

2. 地域医療支援病院としての現状報告・新人医師紹介 (ppt スライド、配布資料参照)

- 資料のとおり説明。

伊藤

3. ワクチン接種状況 (3回目) について行政の皆様から報告

- 続きましてワクチン接種状況についてのご報告をお願い致します。

伊藤

3-① 大田原市

- よろしくお願ひします。3回目の追加接種の状況についてご説明致します。本市では初回の接種から6ヶ月を経過した方から随時、受診券を発行しているところでございます。現在までに約43,000通を発送しております。58,000通が前回の数ですので、その内の43,000通の発送が済みというところでございます。また、12歳から17歳の対象者が約3,000名おりますが、こちらにつきましても6ヶ月を経過した対象者の方から随時、受診券を発行する形になっております。今週末の4月22日までに全対象者へ発送する予定となっております。接種率ですが、4月15日時点々で47%を追加接種したところでございます。内訳として40代以下の接

松本

種率が低い状況であり、現在のところ約 20%であります。若年層への接種向上に向けて市の防災行政無線、登録制の配信メールを使用して積極的な接種を呼びかけているところであります。今後の予定としては個別接種は個別の医療機関にお願いしており、市として行っている集団接種につきましては4月23、29、30日と今月は3回を予定しております。5月以降については隔週で土日の接種を予定しています。6月についても同様の集団接種の予約数枠の中で、今後調整出来ればと思っております。会場は大田原市役所の1階及び2階の一部を使用して行っており、1日約500から600の枠で調整しているところでございます。報告は以上です。

3-② 那須塩原市

- 皆様いつも大変お世話になっております。那須塩原市のワクチン接種状況及び今後の予定についてご報告いたします。12歳以上の一般対象者のワクチン3回目の追加接種につきましては、2月1日から各集団接種会場にて順次行っているところでございます。今年は予定通り進んでおりまして、那須塩原市につきましては5月末で一旦終了する予定としています。5月までに追加接種が出来なかった方、及び新規に追加接種の対象になった方は6月以降医療機関での個別接種を予定しております。また、12歳以上の初回接種につきましては集団接種会場ではなく、市内5ヶ所の医療機関において個別接種で実施しているところでございます。ワクチンの追加接種の状況につきましては、4月18日のデータになりますが、65歳以上の高齢者の32,366人のうち追加接種が終わった方は28,205人、摂取率は87.1%となっております。12歳から64歳の方につきましては、73,316人のうち追加接種が終わった方は33,702人、摂取率は46%という状況となっております。次に5歳から11歳までの小児のワクチン接種につきましては、2月末に接種案内を一斉に発送し現在予約を取り市内13ヶ所の医療機関で個別接種をしております。5歳から11歳の予約状況は30,000弱と低く、小児のワクチン接種は中々進んでいない状況となっております。今後も周知等考えて行かなければならないというところでございます。新型ワクチン接種につきましては引き続きご理解とご協力をお願い致します。報告は以上です。

倉俣

3-③ 那須町

- よろしくお願ひします。本庁の新型ワクチン接種状況についてご説明をさせていただきます。まず、小児を含む人口の摂取率でございますが、4月16日終了時点のデータで3回目の接種率は13,407回で54.9%となっております。こちらの方は順調に進めば今週末には60%に到達する見込みとなっております。次に町の集団接種における3回目接種の予約状況ですが、約16,000回になっており、2回目接種の約77%となっております。町の会場以外でも接種をされている方がおりますので、最終的には2回目接種の80%ほどになるかと思っており、3回目の接種率は約70%になる見込みとなっております。予約状況の方も若年層が少ない状況でございます。ここで紹介させていただきますが、追加接種におけるワクチン別の予約状況でございます。本庁におきましては2月当初からファイザーとモデルナを週毎に切り替えて実施しております。当初の高齢者につきましては予約の方に差はありませんでしたが、現役世代に入ってから先週実施致しましたモデルナ社の予約率は約35%に留まっており、今週のファイザーにつきましては約75%の予約状況になっている事から、ファイザーの方が好まれる傾向があると見ております。また、11歳以下の接種状況につきましては3月26日から1クール目が初まり、4月16日現在では186名の方の接種が完了致しました。予約状況は明日にも2クール目の接種が行われるところですが、予約率の方は約50%に留まっており、その

森

<p>後も 60%に届かず予約率は決して高い状況ではございません。現在は約 40%ほどになっている状況です。報告は以上です。</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ● 行政の皆様、ご報告ありがとうございました。続きまして 4. 休日夜間診療所の利用状況について配付資料がありますのでご参照下さい。それでは赤羽根様お願い致します。 	伊藤
<p>4. 休日夜間診療所の利用状況について（資料参照）</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ● 那須地区広域の赤羽根でございます。皆様には日頃から大変お世話になっております。資料をご覧ください。前々前年度比較含む令和 3 年度実績について（資料のとおり説明。） 	赤羽根
<ul style="list-style-type: none"> ● 赤羽根様ありがとうございました。 	伊藤
<p>5. アンケート結果について</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ● 続きまして 5. アンケート結果について小沼先生より頂いておりますので資料をご参照下さい。①休日の休日当番医（夜間救患者診含）からの紹介患者を速やかに受入れていただきたい。②本会の意義について改めて教えていただきたくとの 2 つ内容の提出がありました。この内容について井上病院長の方より回答させていただきますので院長よろしく申し上げます。 	伊藤
<ul style="list-style-type: none"> ● その前によろしいですか。 	小沼
<ul style="list-style-type: none"> ● はい、よろしく申し上げます。 	伊藤
<ul style="list-style-type: none"> ● ①の方は大事な事であり、現在の病診連携室はすごくしっかりしていて、段々良くなってきていますので、病診連携室が働いている時はほとんどトラブルがなく上手く病診連携がなされているのですが、平日の 5 時 30 分以降、第 1.3 土曜日の 3 時以降、休日の病診連携室が居ない時に救急患者の依頼をしたい場合があります。その時の連携が今ひとつでありトラブルが起こる事があります。これについては会員からの申し出もあり、私の経験からもその部分が一番問題になるところなので、夜間救患者診からの紹介を日赤が一番受入れてくれている訳ですが、病診連携室を通せないのも、7 時から 9 時 30 分までの間、もう少し上手くいくように何とか工夫をしていただけるとありがたいというのが 1 点目。2 点目は既に説明がありましたので大体分かりました。この地域医療支援連絡会も年に 4 回行わなければ、地域医療支援病院としての資格を取る事が出来なくなるためにはそれをやらなければいけない。我々がそれに協力する事で日赤のためにもなり我々のためにもなるという意味では是非開催という事で。以前に井上先生と話をさせていただいた事あった際に、何か不具合があった時は、「その具体例を挙げて地域医療支援連絡会に提出していただければ検討します。」という話を改めてしているので、我々那須郡市医師会は少なくとも会員の皆さん、各支部長から病診連携、患者さんの紹介に関して何か不具合とみられる事例が生じた場合は、那須郡市医師会事務所又は支部会（各支部長 3 名）で意見を一括して受けてから集約し、地域医療支援連絡会に私が最終提出するという形で実施していこうと思っております。以上でございます。 	小沼
<ul style="list-style-type: none"> ● ありがとうございます。次に院長先生からお願い致します。 	伊藤
<ul style="list-style-type: none"> ● 先日、本件に関して小沼先生に申し上げたのはおっしゃるとおりで、実際に連携で何かトラブルが起こった時には、具体的に、[何月・何日に・何が起きたか]というはっきりとした、先方の医療者等、もし分かれば名前を言っていただいても構いませんので、具体的な内容をお伝えしていただきたい。小沼先生からは事務所、支部会で集約したものとおっしゃられておりましたが、それでは各医師会に戻っていただいて会員の先生方 1 人 1 人に聞く事になってしまいますので電話でも構いません。先生方皆さんは診療のお忙しい中ですので、中々 	井上

文面に記載して提出する等は時間も無く大変だと思いまのでお電話でも結構です。事例に対する申し入れ等は具体的に伝えていただきたい。先ほど私の前任地での話はしましたが、「絶対に断らない。」とは言っても私共の心臓血管内科だけの話であって他科がどうかというと、やはり諸事情があってお断りするケースもない訳でもなく仕方がない部分もあります。そこで、当院に赴任して思った事です、大学病院とは全く違う部分があります。それは医師が足りずに非常にカツカツのスタッフ数でギリギリの状況で診療しているという印象を持ちました。ですので、100%貢献するという皆様方のご期待に応えられない事はあるとは思いますが。そのために医師の確保というのが私の大きなミッションとなっております。しかし、医師確保が直ぐに実現する訳ではありませんので、現状で不足している医師、スタッフの中でどのように工夫していくか、何らかの工夫をしていき少しでも改善していきたい。そのためにも具体例を挙げていただきたい。仮に当院の医師、スタッフに関して良くないと思われる部分があった場合には、具体的に伝えていただければご指摘のありました医師、スタッフに対して決して非難するのではなく教育的な配慮で指導したいと思っております。その際にはご指摘された部分の実情を精査させていただきます。しかし、何らかの理由があってお断りするケース、或いは先生方のご期待に添えないような場合があるかもしれません。何らか事情があるかもしれないので、その場合には事情を改善していきます。その際、ご迷惑をお掛けした皆様にはその事情についてご説明と謝罪に伺いたいと思っております。ですので開業医1人1人の皆様には是非お伝えしていただきたいと思っております。また、地区や郡市医師会等として提示していただいても良いのでよろしくお願ひしたいと思います。追加として、[顔の見える連携]という事を先ほどから申し上げていますが、[顔の見える連携]は皆様方との信頼関係に基づくものです。信頼関係とは得てして、我々が先生方から信頼を受けるという事に終始してしまいますが、それだけではなく我々も先生方を信頼したいと思っております。また、私が当院の連携で非常にすばらしいと思った事は、先ほど伊藤地域連携課長から説明がありました放射線の共同利用という考えです。これは放射線科部長の水沼先生は放射線科医という事もあり、すばらしい試みです。例えば先生方が大きな病院に、「CTを撮って欲しい。」といった場合に当院では先生方が当院のCTを利用していただくという考えです。例えば獨協医科大学病院の場合ですが、消化器の医師が消化器疾患を疑って腹部のCTを撮るといった場合はまず大学病院で精査をという事でCTを撮るという事になります。地域医療医が行うかどうかについては、「我々が決める。」といったスタンス、これは大学病院の上から目線の連携であると言わざるを得ないです。やはり我々も先生方を信頼し先生方も我々を信頼する。例えば、先生方が呼吸器疾患を疑って、先生側から「CTを撮りたい。」といった場合は素直にCT撮影を行う。その後は先生方にご判断をしていただきますし、当院の放射線科にはプロが大勢おりますので当院からも放射線専門医としての診断をするという事が理想だと思っておりますので、このシステムには感服しております。このような良い点はどんどん生かしていき、良くない点は改善していくという事で顔の見える連携に繋がると考えています。また、2番目の本会意義について地域支援病院の資格という事は先ほどpptスライド説明の中で確かにありましたが、要するには資格云々以前に先生方と仲良くしたい。そういうつもりで今後も先生方とお付き合いをしていきたいと思っておりますのでよろしくお願ひ致します。

- ありがとうございます。小沼先生、よろしいでしょうか。
- はい。
- ありがとうございます。小沼先生から貴重なご意見をいただきました。その中で連携室が居

伊藤
小沼
伊藤

る時間帯は連携は大丈夫というお言葉をいただき、当院の参加スタッフのモチベーションが上がったと思います。ご意見は真摯に受け止めまして、これからも先生方から当院に何かご意見等ございましたら、連携室の方に遠慮なく具体例を添えてご連絡していただければ、私が責任を持って上層部に報告致します。今後とも何卒よろしくお願い致します。

6. 質疑応答・その他

- 最後に皆様からご意見等頂戴したいと思いますが如何でしょうか。
- 特になし。

－閉会挨拶－

- 本日はお忙しい中当院のマイタウンホールまでお越しいただきありがとうございました。次回開催は資料のとおり7月19日を予定しております。その際には実地、WEB、ハイブリットのいずれになるかは現状では分かりませんが、詳細が決まりましたら改めてご連絡させていただきますのでよろしくお願い致します。皆様本当にありがとうございました。

(散会)

以上

伊藤
参加者

伊藤

議事録

表 題	令和4年度第2回那須赤十字病院 地域医療支援連絡会	管理番号	栃那病携第29号	
		作成者	地域医療福祉連携課 高橋 瑞季	
		承認	審査	担当
		/		

開催日時	2022年7月26日(火)19:00~20:00	次回日時	2022年10月18日(火)19:00 予定
開催場所	那須赤十字病院 マイタウンホール	次回場所	那須赤十字病院 マイタウンホール
出席者	<p>【院外】 小沼 一郎、塚原 純雄、車田 宏之、齋藤 仁、渡邊 敏郎、村井 成之、上野 顕 磯 勝彦、栗野 哲実、松本 通尚、倉俣 久美子、森 繁雄、永山 君春、赤羽根 泰啓</p> <p>【院内】 井上 晃男、阿久津 郁夫、佐藤 隆、田村 光、白石 悟、唐橋 正弘 菊池 範江、水沼 仁孝、福島 史哉、城戸 啓、林 堅二、伊藤 弘人 伊藤 健一、安藤 有紀、菊池 明日香、堀江 佳子</p> <p style="text-align: right;">赤：欠席 青：代理</p>		
議題	意見交換（配付資料参照）		
配布資料 その他	ppt スライド（会次第、会員名簿、地域医療支援病院としての現況報告、アンケート結果報告）		
配布先	出席者全員		

進行内容	発言者 (敬称略)
<p>ー開会挨拶ー</p> <ul style="list-style-type: none"> 皆様こんばんは。定刻になりましたので、令和4年度第2回那須赤十字病院地域医療支援連絡会を開催したいと思います。司会進行を務めます、那須赤十字病院地域医療連携福祉課長の伊藤と申します。どうぞ宜しくお願いいたします。先週予定しておりました当連絡会ですが、急激な感染拡大の影響を受けまして、当日の延期となり皆様には大変ご迷惑をお掛けしたことをこの場を借りてお詫び申し上げます。また、急な変更にもかかわらずたくさん皆様にお集まり頂いたこと、心より感謝申し上げます。それでは、まず初めに那須都市医師会会長の小沼先生からご挨拶を頂戴したいと思います。よろしくお願い致します。 <p>1. 挨拶</p> <p>1-① 那須都市医師会 会長 小沼 一郎 先生</p> <ul style="list-style-type: none"> 皆様こんばんは。まさかこんな事になるとは思っていませんでした。7月に入り、急激に新型コロナウイルスの感染者が増えていて、ワクチンを打つ先生、コロナ患者の診療にあたる先生、それぞれ皆さん大変だと思います。一般患者さんの診療も加わり、お疲れだと思いますが本日は宜しくお願いいたします。ホットなニュースをお伝えします。最近の感染状況ですが、県北地域は10万人あたりの感染者数が少ないです。大田原・那須塩原・那須地域で比べると、大田原が1番感染者が多いです。次がわずかな差で那須塩原市。那須町は密ではなく、10万人あたりの感染者数が約半分くらいです。しかし、過去最多の人数となっています。次 	<p>伊藤</p> <p>小沼</p>

にワクチンに関するニュースですが、先ほど那須塩原市のワクチン担当者と話をしていましたが、いよいよ医療従事者の4回目ワクチン接種が始まる事が決定しました。なぜ今になってしまったかという、医療従事者の範囲がどこまでなのか、という所で1回目2回目は広範囲でしたが、今回は原則として病院・診療所に勤めている医師・看護師・事務・薬剤師その他コメディカルとなっていて、その地域に属してれば接種できます。またその家族も対象です。薬局の薬剤師、歯科医師、訪問看護のみならず看護師であれば対象です。あとは、介護施設・高齢者施設の職員も医療従事者に含まれる事になりました。自分の住んでる地域外で働いている人。例えば、当院でも大田原在住のスタッフが居ますが、その場合は住んでる地域の接種券を提出すれば接種でき、融通が利くようになっています。

また、ファイザーだと1つのロットから6人分取れて、接種する人が10人居るとします。そうすると2人分あまるので、余った分は隣の薬局の薬剤師に使ってもいいし、65歳以上の方で4回目ワクチンの接種券を持っている患者さんに使ってももいいことになっています。ですので、なるべく自院で接種をしてほしいとの事です。どうしても自院で接種出来ない場合は、個別接種を行っている医療施設で接種するようになります。なるべく自院接種していただくと、行政も処理が少し楽になるとの事です。コロナ関連のことばかりになってしまっていますが、以上2つをお知らせします。那須日赤にも余裕があれば、発熱外来を設置してただけたらな、という思いもあります。大田原地区には日赤近くの高久内科クリニックの高久先生が1日約60~70人検査していただいて、日赤の代わりを担ってくれているようです。今後増えていくと、それも大変なので日赤で検査等していただくと助かります。あと、日赤の重大な役割は三次救急なので、具合の悪い患者さんは熱があっても無くても地域の医療機関からの紹介は快く受け入れて頂ければありがたいです。このコロナの最中、疲弊しているとは思いますが、皆さんで乗り越えていきましょう。以上です。

- 小沼先生ありがとうございました。続きまして、病院長の井上より皆様にご挨拶をさせていただきます。

伊藤

● 1-② 那須赤十字病院 院長 井上 晃男

- 皆様こんばんは。病院長の井上です。本日はありがとうございます。本来、先週の19日火曜日に対面で予定しておりました。4月に引き続き、皆様にお目にかかれる事を楽しみにしておりましたが、先々週の末から急激に感染拡大しており、19日当日に水沼部長から会議の開催についてご意見を頂き、急遽対面での会議は中止とさせていただきました。しかし小沼会長がおっしゃっていた通り、急激な感染拡大に対する県北地域での発熱外来も含めた医療体制を先生方と調整しなければならない重要な案件を抱えています。ですので、なるべく早い時期にWEBでということで、本日この様な形で開催させていただきました。当院としてもコロナ対応に追われています。先生方と緊密になってこの危機を乗り越えなければならないという思いは共有させていただいております。この医療体制に関しては後ほど、医療社会副部長の福島よりお話をさせていただきますので、それを基に皆様と議論を展開したいと思います。以上で病院長の挨拶とさせていただきます。本日は宜しく願いいたします。

井上

- 出席者報告 (ppt スライド 連絡会委員参照)

伊藤

<p>2. 地域医療支援病院としての現状報告 (ppt スライド、配布資料参照)</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 資料のとおり説明。 	<p>伊藤</p>
<p>3. ワクチン接種 (4 回目) について行政の皆様から報告</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 続きましてワクチン接種状況についてのご報告をお願い致します。 	<p>伊藤</p>
<p>3-① 大田原市</p> <ul style="list-style-type: none"> ● いつもお世話になっております。本市の 4 回目ワクチン接種について報告いたします。4 回目のワクチン接種対象者へ接種券の発送状況ですが、3 回目の接種を完了した方から順次、発送しています。6 月中に約 2,000 人、7 月中に約 12,000 人、8 月中に約 7,500 人、9 月中に約 500 人に発送する予定です。本日までに 12,650 人に発送済です。対象者は 60 歳以上の方が約 2,200 人、基礎疾患のある方が約 3,000 人と見込んで、最低でも 2,400 人の方が接種対象になると考えています。初回接種のときに基礎疾患があると申請していただいた方は、今回は申請無くとも接種券を発送していますが、新規の方は現在 259 名の申請があります。現時点での接種の実績ですが、60 歳以上の方で 4,334 名、約 15.9%の接種率です。基礎疾患のある 60 歳未満の方は 111 名が接種済です。6 月 20 日から 4 回目接種を開始してまして、集団接種と個別接種の 2 つの方法で行っております。協力医療機関は 33 施設あります。集団接種は 7 月 9 日から市役所 1 階会議室で、1 日約 500 人の接種を行っております。今後の予定ですが、8 月 6、7 日、お盆期間を除いて 8 月 20、21 日に集団接種を行う予定です。現時点で 8 月 6、7 日の予約はすでに 500 名ずつ埋まっている状況です。8 月 20、21 日は、最近の感染拡大を受けて急速に予約が埋まってきている状況です。9 月の接種については未定です。また、7 月 22 日付で 4 回目以降のワクチン接種の話が国からあり、オミクロン株対応のワクチンを検討するという通知が来ております。これについては秋以降に接種開始するという事です。現時点では全員接種に向けて準備を進めるようにと通知がありました。9 月の接種についてはこれらを調整しながら決めていきたいと思っております。 	<p>松本</p>
<p>3-② 那須塩原市</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 本日、那須塩原市の倉俣課長が都合のため欠席で、資料を預っておますので私が読み上げさせていただきます。 <p>那須塩原市の 4 回目ワクチン接種状況について、ご報告させていただきます。60 歳以上と、基礎疾患がある 18 歳以上 59 歳以下を対象とした 4 回目の追加接種につきましては、地域医療機関のご協力のもと、7 月 1 日から市内 32 か所で個別接種を実施しているところでございます。また、4 回目のワクチン追加接種の状況につきましては、7 月 24 日時点で、全対象者 99,108 人のうち、追加接種を終えた方は 4,013 人で接種率は 4.0%であります。このうち、60 歳以上の方に目を向けますと、対象者 39,830 人のうち、追加接種を終えた方は 3,924 人で接種率は 9.9%となっています。なお、今回算出した対象者数には、基礎疾患が無い 18 歳以上 59 歳以下の市民も含んでいることから、実際の接種率は報告した数値よりも高いものと思われまます。</p> <p>今後も新型コロナワクチン接種につきまして、引き続きご理解とご協力の程、宜しくお願い申し上げます。</p>	<p>伊藤</p>
<p>3-③ 那須町</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 本日は宜しくお願いします。那須赤十字病院をはじめ、郡市医師会の先生方には日頃より町民の新型コロナの診断や治療、地域支援にご尽力いただき、厚く御礼を申し上げます。 	<p>森</p>

本町の新型コロナワクチンの接種状況をご説明させていただきます。まず接種率についてですが、小児を含む総人口 24,393 人に対して、7月25日終了時点で、1回目が21,137回で86.7%。2回目が20,999回で84.1%。追加接種3回目が17,648回で72.3%。そして追加接種4回目が2,075回で60歳以上の方で見ますと、26.6%の接種率です。なお、小児に関しては1回目が35.7%。2回目34.2%となっております。次に4回目の接種について説明いたします。まず接種体制についてですが、これまでの3回と同様、町の施設で集団接種を開始しました。これまで大きく変わった所が、接種までの流れです。今までは接種を希望する方が電話やWEBで予約を入れる形でしたが、4回目については3回目の接種から5ヶ月経過した方から順次、接種券と共に4回目の接種日時と使用ワクチンを指定した案内をお送りしています。日時やワクチンに変更がなければ、予約を取り直す必要が無く、指定した日時に接種することになります。なお、ワクチンの指定につきましては、3回目接種と同じものとしています。3回目とは流れを変更しましたが、今のところ大きな問題も無く進めることが出来ています。4月末までに3回目接種が完了している方は、9月までにおおむね完了を見込んでおります。本町の新型コロナワクチン接種の進捗状況についての報告は以上です。

4. アンケート結果について

- 続きまして、アンケート結果についてご説明させていただきます。西那須野塩原地区医師会様より、2つほどご意見を頂いておりますので、資料を読ませていただきます。
 - ①緊急の紹介時などに、患者の状態・検査内容など詳しく聞かされるのはいかがなものか。しかも連携室の事務及び医師に2度同じ内容を話すのは大変だ。
 - ②6月5日(日)競輪選手の転倒外傷患者が那須赤十字に受診依頼し、休日当番医を受診するようにと返答されている。休日当番医は内科、小児科の先生方が多いため、そういった所では対応できない。日赤で対応していただくか、整形外科の病院などを教えて頂きたい。
 以上2点について、ご意見いただきました。
- 文書では詳しく伝わらないと思いますが、①に関しては、開業医では対応できない患者さんを紹介させていただく際、患者さんの状態・紹介する理由などをお伝えするのは当然のことだとは思っています。そのうえで、この様なご意見があるということです。
 - ②に関して、詳しく調べていただいた所、6月5日ではなく5月29日だったそうで、日付を間違えてしまい申し訳ありません。西那須野塩原地区医師会でこの話が出たとき、過去にも競輪選手の外傷患者の対応について、今回と同様のケースがあったとのことでした。ですので、今回質問させていただきました。
- ありがとうございます。それでは、こちらについてご報告させていただきます。まず、近隣の先生方からの救急受入れについては、平日の日勤帯に連携室対応するケースと休日夜間帯のケースと、大きく二通りあります。休日夜間帯は日当直の事務が連絡を受け、内容を確認し内科系・外科系の医師へ電話を繋いでいます。連携室が対応する日勤帯は、医師へ連絡するために必要な情報の聞き取りを行っております。内容は、基本情報(氏名、生年月日)、症状と症状経過、バイタル、意識レベル、既往歴、搬送方法などを確認させていただいてます。それらの情報をもとに、対応する医師を判断し相談のうえ受入れております。今回、この様なご意見を頂きましたので、早期に適切な医療を提供出来るよう、先生方にご迷惑がかからないようにスムーズな対応を検討していこうと思っております。また、稀に当院医師が紹介元の先生と直接お話ししたいと希望する場合は、電話を繋ぐケースもございますので、その際は二度手間を防ぐように頂いた情報は、しっかり共有できる体制を整えていきたいと思って

伊藤

齋藤

伊藤

おります。何卒宜しくお願い申し上げます。

井上

- このアンケートに関しては、画面の共有をしなないと分からないかと思い、このスライドを共有させていただきました。私は、専門が循環器科でして、循環器の立場でこの問題を考えた場合、「とんでもない」という一言に尽きます。全てが循環器疾患ではないので、同じ括りには出来ませんが、例えば急性心筋梗塞だと1秒を争う疾患です。ですので、前任地では循環器医師がホットラインを持っていて、「胸痛あり」と言われただけで即受入れます。「胸痛はいつからか、どんな胸痛か、心電図はどうですか」などを聞いてくる医師もいますが、その時間で予後が明らかに悪化してしまいます。ただ、全てが循環器疾患と同一に考えることはできません。救急を受入れるにあたり情報が必要ですので、色々お聞きすることがあると思います。しかし、この事例は私から言わせれば、全て日赤が上から目線で近隣の先生方の立場になって考えていないと思います。先生方は一刻も早く、患者さんを搬送したいと思っているはずで、あれこれ聞いたりせず、早く担当医に電話を繋ぐべきだと思います。事務は必要最低限の情報を聞いてから担当医へ繋ぎ、そこで詳しい症状などをお話して頂くというのが理想です。恐らく、連携室の事務も担当医に確認したときに、あれこれ聞かれるのだと思います。はっきり言ってこれはプロフェッショナリズムの問題で、患者目線・紹介してくれる先生方の目線に立っていないんです。そこが問題だと思います。長年私も、アンプロフェッショナルな医師を見てきました。そういう医師たちにも、何とかプロフェッショナルな連携対応を学んでもらえるよう努力してきました。その経験を活かし、先生方にこのような不愉快な思いをさせないように、システム作りをしたいと思いますので、少々お時間下さい。各医師会の先生方からも同じようなご意見があるかと思いますが、努力して体制整えていきますので、ぜひ当院をご信頼していただきたく、お願い申し上げます。

- 2例目に進めさせていただきます。先ほどもありましたが、6月5日でどうしても対象となる患者さんを見つけられなかったため、齋藤先生にお願いしまして、ご意見を頂いた先生に直接お話を頂いた所、5月29日だったと判明しました。転倒外傷の競輪選手の受入れについて、ご報告させていただきます。患者さんは、自転車競技部の16歳男性で栃木県北在住。宇都宮競輪場で転倒し、左肘と右膝の痛み・擦り傷があったとのこと。当院へは母親から電話相談がありました。当院ではまず受付の事務が話しを伺い、電話相談担当の看護師へ繋がりました。担当看護師は状況を聞き、外科系の日直医師へ確認しました。この電話相談の直前に、救急外来には顎が外れた患者さんと、腕相撲で腕が曲がった患者さんの受入れがあったため、看護師は済生会など宇都宮方面の病院を勧めたそうです。しかし、母親は今後の通院の事を考えて県北地域での受診を希望されたため、「国際医療福祉大学病院へ電話相談してみても？」と勧めたそうです。結果的に、休日当番医に受診されてしまったようです。ご指摘では、当院から休日当番医を勧めたとなっておりますが、調べた所そのような事はなく、国際医療福祉大学病院を勧めたと聞いております。今後も同様のケースが多々あるかと思えますので、当院で対応することが一番良いと思いますが、万が一対応出来ない場合は症状にあった病院を勧めさせていただきます。

伊藤

- この件に関してもコメントさせていただきます。この時は対応出来ない状況にあった事は確かです。ただ、宇都宮の病院や国際医療福祉大学病院を勧める際、どのような言い方をしたか分かりませんが、この対応は患者の立場に立っていないですね。あとは、母親の気持ちです。息子がケガをしたという不安、心配、母親の立場に立ってないです。あくまで、日赤からの上から目線です。極めて無責任な対応だと思います。前任地でも同じような事がありま

井上

して、私が連携担当だった時に当院でどうしても対応できない場合、私自身が各方面の病院に連絡し受け入れ先を見つけて、そちらを紹介したことがあります。自分の妻、子供だったらどうするか。と言うことを考えれば、こんな対応は出来ないはずで、それが私が先ほどから言っている「プロフェッショナルリズム」です。事務的な対応ではなく、患者・家族の立場に立って考えて対応することが必要だと思います。済生会や国際医療を無責任に案内しても、そちらも忙しいかもしれないし、受けてくれる保証がありません。当院が対応出来ない時にはこの病院が対応してくれる、という病院同士の信頼関係を築けるよう努力します。

齋藤

- ご丁寧な回答ありがとうございました。休日当番医を案内した訳ではなかったと、誤解があったので、西那須野地区医師会でもきちんとその旨ご報告させていただきます。怪我の具合にもよりますが、今後も上手く連携していければと思います。ありがとうございました。

塚原

- 今回の件でよろしいでしょうか。那須塩原地区では、福島整形外科病院が日曜日でも診療しています。ですので、福島整形に依頼してもらえれば受けてくれると思います。あと、まだ先のことですが、国体が開催されます。その時に、那須塩原市・那須町・大田原の病院に救急診療の依頼が入ると思います。10月2日から国体が始まり、2日に那須町で自転車ロードレースがあります。これは大事故になる事もある競技なので、那須赤十字病院にも依頼がくるかもしれません。その際は宜しくお願いいたします。

伊藤

- 塚原先生ありがとうございました。福島整形外科の情報提供もありがとうございます。国体の際は、しっかりと対応させていただきます。宜しくお願いいたします。

5. 質疑応答・その他

伊藤

- 続きまして、質疑応答に入りたいと思います。昨日小沼先生からお電話いただき、発熱外来の在り方に対して提案をさせていただきたい、と話がありましたので、当院呼吸器内科の福島よりご説明させていただきます。

福島

- 皆様こんばんは。本日はお集まりいただきありがとうございます。

昨日小沼先生からご質問頂きまして、100%満たした回答になっているか分かりませんが、現時点での那須日赤のコロナに対する診療の現状をお話します。

お話したいことが2つあります。1つめは、栃木県はコロナの入院患者さんに対して、病院をグループ分けしていて、重症・中等症・軽傷と分けています。我々の病院は中等症担当の病院です。この病院群でコロナに対峙しているの、栃木県全域から要請が来ます。保健センターの方々が大変努力をされていて、患者さんを回して頂いているという状況です。特に那須日赤の場合は、いままで他の病院で対応できなかったと言われている透析患者や、妊産婦で今にも帝王切開が必要だ、という患者さんの診療依頼がこれまで多く来ていました。地域を越えて、県南も含めてあらゆる所から依頼が来ていました。依頼が来る度協議して、透析担当の循環器の先生や産婦人科の先生、小児科の先生と協議しながら対応している状況です。これは土日祝祭日、平日問わず依頼が来るのがお昼頃が多いのですが、受入が決まったら平日であっても夜間から深夜まで診療が及ぶことがあります。こういった診療を行っているのが現状です。重症化しているときは即座に対応が必要で、重症者対応病院は、自治・獨協・済生会宇都宮病院が名乗りをあげていて、県のコントロールセンターがありまして、24時間対応の窓口で3病院の先生方とテレビ電話を通じてやりとりをして、救急搬送するというのが我々中等症病院の役割です。また、お正月明けは第6波、今は第7波と言われていますが、コロナが増え入院患者も増えています。お正月過ぎの患者さんより今の患者さんの方が、比

較的しっかりとした肺炎像がある印象です。またコロナとは別の件で受診していて、検査してみたらコロナ陽性だったという方に対しても我々是对応していかなければなりません。地域連携の面から言わせて頂きますと、我々は拠点病院だという自負がありますので、コロナの有無にかかわらず、地域の先生方とうまく連携していきたいと心から思っています。ですので、そういった先生方から今すぐ診療が必要・入院が必要な方は相談して頂いて、併せてこちらで至急でコロナ検査をすることも出来ます。陽性だった場合は我々が診療にあたっていきますので、これからもご紹介をお願いいたします。以上です。

- このように急激に感染拡大すると、クリニックの先生方が非常に大変な思いをしていると痛感します。私も前任地近くのクリニックへ月に1回、お手伝いに行っておりまして、そこでは発熱外来は行ってませんが発熱した患者さんが来てしまい、検査すると90%以上が陽性、そのため一般の患者さんが診られず、みなさん限界な状態で診療を行っている事を痛感いたします。先生方がそのような思いの中で診療を行っている中、当院でのコロナ対応はどうなっているのか、というご意見をしばしば頂きます。福島が申し上げた通り、コロナであろうがなかろうが三次救急の拠点病院として、いろんな患者さんを診なければならない状況で、発熱患者さんを何十人何百人と診ることは出来ませんが、発熱の有無、コロナにかかわらず、先生方からの紹介患者さんは、100%と言いたいところですが、現時点ではそれが出来ませんが、極力お受け致します。ぜひご信頼いただき、今後とも宜しく願いいたします。

—閉会挨拶—

- 本日はこれで終了とさせていただきます。議事録にしっかり残しまして、皆様にお届けしたいと思います。
 次回の開催は10月18日(火)を予定しております。今後とも引き続き宜しく願いいたします。ありがとうございました。

(散会)

以上

井上

伊藤

議事録

表 題	令和4年度第3回那須赤十字病院 地域医療支援連絡会	管理番号	栃那病携第42号		
		作成者	地域医療福祉連携課 高橋 瑞季		
		承認	審査	担当	

開催日時	2022年10月18日(火)19:00~20:00	次回日時	2023年1月17日(火)19:00 予定
開催場所	那須赤十字病院 マイタウンホール	次回場所	那須赤十字病院 マイタウンホール
出席者	<p>【院外】</p> <p>小沼 一郎、塚原 純雄、車田 宏之、齋藤 仁、渡邊 敏郎、村井 成之、上野 顕 磯 勝彦、栗野 哲実、平山 英敏、倉俣 久美子、森 繁雄、永山 君春、赤羽根 泰啓</p> <p>【院内】</p> <p>井上 晃男、阿久津 郁夫、佐藤 隆、田村 光、白石 悟、唐橋 正弘 菊池 範江、水沼 仁孝、福島 史哉、城戸 啓、林 堅二、宮城 徳人 人見 優子、青木 哲也、安藤 有紀、菊池 明日香、堀江 佳子</p> <p style="text-align: right;">赤：欠席 青：代理</p>		
議題	意見交換（配付資料参照）		
配布資料 その他	ppt スライド（会次第、会員名簿、地域医療支援病院としての現況報告、アンケート結果報告）		
配布先	出席者全員		

進行内容	発言者 (敬称略)
<p>－開会挨拶－</p> <ul style="list-style-type: none"> 皆様こんばんは。定刻になりましたので、令和4年度第3回那須赤十字病院地域医療支援連絡会を開催したいと思います。司会進行を務めます、那須赤十字病院地域医療連携福祉課係長の青木と申します。どうぞ宜しく願いいたします。それでは、まず初めに那須都市医師会会長の小沼先生からご挨拶を頂戴したいと思います。よろしくお願い致します。 <p>1. 挨拶</p> <p>1-① <u>那須都市医師会 会長 小沼 一郎 先生</u></p> <ul style="list-style-type: none"> 皆様こんばんは。まさかコロナが3年間も続くとは思っていませんでした。現在は第7波ですが、収束にはほど遠い状況です。とちぎ国体があったので仕方が無いかと思いますが、栃木県の本日のコロナ陽性者は737人と発表されました。県北は那須日赤にも4人患者が入院しているとの事です。国福には7人、菅間には8人入院しています。那須南にも2人ほど入院しているそうです。西那須野にある県北の宿泊療養施設には、一時50人ほど入所していましたが、現在は8人入所しています。栃木県全体で自宅療養者が127人です。子供に感染が多くて、私が校医をしている小学校でも、今日現在で9人の陽性者が出ました。その学区にある中学校の柔道部ではクラスターが発生して1年生が学年閉鎖となりました。当院でも、本日の発熱患者が10人程いました。以前だと10人中8人くらいが陽性でしたが、現在は10人中2人程度の陽性者です。大体65歳以下の方が多く、まだまだ油断出来ない状況です。 	<p>青木</p> <p>小沼</p>

やはり1番最初の方針通り、「密にならない・換気をしっかりとする・飛沫感染を防ぐ」これが大切だと思います。我々も大変ですが、職員の皆さんも大変だと思います。当院もスタッフが8人しかいない中、7.8.9月で3人のスタッフから退職の申し出がありました。なかなか補充が難しく、特に看護師は県北で募集しても応募がありません。なんとか昨日で補充できた状況です。これからインフルエンザもどのくらい流行するか分かりませんが、まだまだこの状況は続きそうなので、注意しながら頑張っていきたいと思います。以上です。

1-② 那須赤十字病院 院長 井上 晃男

井上

- 皆さんこんばんは。私が4月に着任してから、早半年が経ちました。今回の連絡会もWEBで開催させていただくことになりました。以前も申し上げましたが、私は前任地で地域連携を担当していましたので、その経験を活かして当院でも、連携に力を入れています。着任から半年経ち、連携の様々な問題点に分かってきまして、随時改善すべく努力しておりますが、なかなか体制そのものを変えていくのは難しいですし、今の体制でどのように悪い点を良くしていけるか日々考えながら活動しています。先生方には、ご不便ご迷惑をお掛けするかと思いますが、少し長い目で見て頂ければと思います。私の中で地域連携は1番のミッションとしていまして、顔の見える連携を目指すべく、1年間かけて地域の医療機関へ直接ご挨拶に伺っている所です。もう一つのミッションは医師の確保です。この2つのミッションを果たすべく日々努力しています。小沼会長からお話頂きましたが、コロナの状況はまだまだ大変で、感染者数がピークの時は先生方も大変苦労されたと思います。当院も大変でしたが、阿久津副院長のご指導の下、感染対策をして参りました。先日、赤十字病院の東部ブロック病院長会議があり、出席して感じたことは、同じ規模で同じ地域性の病院と比べて当院の対策は圧倒的に優れていると感じました。今後も、臨機応変な対策を阿久津副院長が考えてくださっていますので、地域全体で頑張っていきたいと思っております。宜しく願いいたします。1つご報告がございまして、皆様ご存じの通りこの県北地域は脳卒中対策が弱く、体制がゼロに等しいです。以前から申し上げています通り、県北の急性期医療機関3病院が1つの医療機関として機能すべく、協力し緊密な連携を取りながら県北全体を支えていく事が必要だと思えます。そんな中当院に10月より獨協医大から山田先生が来てくれています。若手ですが、とても優秀でフットワークの軽い先生です。来年の4月には獨協から河本俊介先生が来てくれます。河本先生は脳血管障害の開頭手術が専門で、非常に優れた技術を持っており人柄がとても良い先生です。今も時々手術のお手伝いに来てくれています。那須脳神経外科病院で非常勤で勤務されており、この県北地域の脳卒中対策について危惧し、自らが県北地域を支えたいと強い思いで当院を希望してくださいました。大学からの異動となると、色々なしがらみがあり難しく水面下で動いていましたが、先日正式に決定し、院内の幹部会議でも正式に報告しました。現在2名のところが4名体制になり、できる限り緊急の対応をしていきたいと申しておりますので、大いに期待していただければと思います。河本先生が赴任されましたら、改めて皆様にご挨拶させていただきます。当院の副院長が阿久津副院長と佐藤副院長が内科系、田村副院長が外科系、そして河本先生が副院長として加わります。今後も当院の活躍に期待して頂きたいと思えます。本日は宜しく願いいたします。

2. 地域医療支援病院としての現状報告 (ppt スライド、配布資料参照)

- 資料のとおり説明。

青木

3. ワクチン接種（4回目）及び小児ワクチン接種について行政の皆様から報告

青木

- 続きましてワクチン接種状況についてのご報告をお願い致します。

3-① 大田原市

平山

- まず初めに、4回目接種についてご報告いたします。60歳以上の接種率は69.2%となっております。4回目接種の対象者は3回目接種を終了した60歳以上の方、18歳以上60歳未満の基礎疾患を有する方、医療機関・高齢者施設の従事者となっております。単純に比較できない事から、60歳以上を対象に接種率を算出させて頂きました。続いて、小児5歳から11歳のワクチン接種についてですが、小児の人口4295人に対して、1回目が41.2%、2回目が40.4%、3回目が0.6%となっております。大田原市からは以上です。

3-② 那須塩原市

倉俣

- 初めに4回目の接種についてご報告します。個人接種は市内32ヶ所の医療機関にご協力頂き実施しております。9月23日から3回目4回目の接種の接種を従来型からオミクロン株対応ワクチンに切り替えて実施しております。また、集団接種も9月30日からビックエクストラ那須塩原店で全市民を対象に行いました。10月中旬には3回目接種から5ヶ月経過している全市民を対象に接種券を郵送したところです。なお、11月1日からBA4、5ワクチンに切り替え集団接種会場と個別接種は市内8ヶ所の医療機関に集約し、全市民を対象に実施していく予定です。従来型で4回目接種までを終了した60歳以上の方に対しては、オミクロン株対応ワクチンの接種券を今月中に郵送する予定です。ワクチンの4回目接種状況に関しては10月18日時点で、全対象者117,005人に対して、接種率は32.5%です。そのうち60歳以上の方は対象者40,175人に対し、接種率は72.1%です。次に小児の接種状況についてご報告いたします。市内4ヶ所の医療機関で個別接種を実施しています。2回目接種を終えた方は対象者7,102人に対し、接種率は33.3%となっております。9月下旬から10月中旬にかけて、2回目接種が終了した方を対象に3回目の接種券を発送した所です。これから順次3回目の追加接種が進んでいく見込みです。生後6ヶ月から5歳未満の乳幼児の接種につきましては、12月からの接種開始に向けて現在準備を進めている所です。今後も新型コロナワクチン接種におきまして、ご理解ご協力の程宜しくお願い申し上げます。

3-③ 那須町

森

- まず、4回目のワクチン追加接種状況ですが、10月15日終了時点で60歳以上が接種率76.5%、59歳以下は5.7%です。12歳以上は42.9%となっております。11歳以下の小児ワクチン接種状況ですが、9月30日終了時点で、1回目が38.4%、2回目が37%、3回目追加接種が3.6%となっております。本町においても、4回目接種については9月24日からオミクロン株対応ワクチンに切り替えて接種をしており、すでに218回の接種が行われています。今後すでに4回目の追加接種を終えた方に、オミクロン株対応ワクチンの接種が開始されますが、12月末までにはおおむね完了出来る見込みです。

4. アンケート結果について

青木

- 西那須野地区医師会より事例提供がありましたので、ご説明させていただきます。
患者さんは84歳男性Y氏。うっ血性心不全で、8月31日から9月8日まで当院の循環器内科に入院していました。その後、9月19日（月）この日は祝日で、イレウスにて救急受入要請がありました。当院からは受入不可との返事で、その後国際医療福祉大学病院へ搬送されたとの事です。国際医療福祉大学病院では18時34分に心肺停止状態で病院に到着しまして20

時 08 分に死亡確認とりました。病名は心原性塞栓による急性上腸間膜動脈塞栓との診断でした。この件について、当時の救急受入れ状況について教えて欲しいとの内容となっております。

次のスライドに移りまして、この事例についての調査結果をお伝えします。9 月 19 (月) 18 時 21 分に西那須野消防隊から当院のホットラインへ入電となっております。その後当院から受入不可と伝えられ、国際医療福祉大学病院へ救急搬送されたという経緯ですが、当時の院内の様子を調査した所、同時刻帯に救急車が 3 台、直来 1 名こちらが緊急手術をしており、対応が難しく診療の確保が困難であるため、緊急性を考慮し他院への搬送を依頼したとの事です。経緯は以上になりますが、この件に関して病院長より今後の対策等も踏まえまして、説明させていただきます。

- 4 月の連絡会の時に、連携の不備で問題が生じた時には、具体的な事例を直接私に教えてくださいと申し上げまして、それ以来しばしば私の耳に入ってきてます。今回の事例に関しては、9 月 19 日 (月) は敬老の日で、同時刻帯に救急車が 3 台、直来の患者が緊急手術という事で、休日祝日の対応では確かに困難な状況であったと思われます。ですが、患者さんご家族の気持ちになって考えた場合、8 月 31 日から 9 月 8 日まで当院に入院していたのに断られてしまい、ご家族は納得できないと思います。当院に搬送されたとしても死亡という結果は変わらなかったと思いますが、家族からすれば当院に断られた事は非常にショックだと思います。この時にホットラインを受けた医師は、当時の状況からして対応困難だったと思いますが、循環器内科に入院していたという事で、ご存じの通り循環器内科は景山部長を中心として「絶対に断らない」という姿勢で 24 時間対応しています。祝日でもオンコール体制を取っていますので、循環器内科の医師に連絡すれば必ず受けていたと思います。救急車が 3 台、直来患者が緊急手術という状況はどうにもなりません、三次救急を掲げている以上は「絶対に断ってはいけない」というのが僕の心情です。全国 92 施設ある赤十字病院は、急性期に特化した病院や慢性期・回復期に特化した病院などが様々な病院があります。同じ三次救急の病院に事情を聞いてみますと、地域性もありますが、常勤医が当院の倍以上居ます。当院は圧倒的に医師不足です。冒頭の挨拶でも申し上げた通り、私の一番のミッションは地域医療ですが、それよりも優先すべき課題は医師確保です。昨年まで赤十字本社の医療事業本部長をされていた、宮原元院長から「あなたがやるべき事はまず第一に医師確保だ」と言われました。ですので、医師確保に向けて努力している所です。当院の循環器内科は 24 時間 365 日体制と申し上げましたが、さらに充実させるためにも医師確保が必要な状況です。現時点では常勤医が 7 名、研修医が常時 1 名から 2 名回ってきています。研修医の先生を労働力としてはいけません、少なくとも 8 名から 9 名体制でやっていますので、救急の循環器疾患、特に急性心筋梗塞に関する対応は、私も自身を持って丸を付けられる状況にあると思います。ご存じの通り、脳卒中循環器病対策基本法というのが設定されて、脳卒中循環器病の対策を各都道府県ごとに立案しなければなりません。栃木県は循環器病脳卒中による死亡率が他都道府県より圧倒的に高く、そこを何とかしなければなりません。脳卒中に関しては先ほど申し上げた通り、4 月以降ご期待に添えるようにしたいと思っております。心筋梗塞もまだまだ改善の余地があります。先日、大田原地区医師会で講演をさせていただき、その時に医師会の先生からある話を聞きました。胸痛の患者さんが居て、日赤の循環器の先生へ胸痛ありと連絡したところ、すぐに受けてくれたので

井上

伊藤

井上

救急車を呼んだところ救急隊は患者が胸痛で苦しんでいるのにもかかわらず、いつからの痛みなのか、どこが痛いのかと問診をしており、出発までに 20 分かかったそうです。これは非常に大きな問題です。問診票を記入し提出する決まりがあるのは仕方が無い事ですが、一秒を争う疾患ですので問診票を記入する余裕はありません。ですので、医師側も胸痛と聞いただけで受けています。それなのに救急隊の方達が 10 分 20 分と出発までに時間を掛けてしまうのは大きな問題です。決まりがあるのは分かりますが、臨機応変に対応して欲しいです。問診は後からでも良いと思います。まずは命を優先に考えて頂きたいです。これが災害の現場や、交通事故現場では問診などしないと思います。急性心筋梗塞は一見すると重症感が無いように見える時があるので、問診する時間があると考えてしまう救急隊の方もいるかもしれません。そこに関しては我々専門医師が皆様に啓蒙していく必要があると感じました。先日各消防にご連絡いたしました。急性心筋梗塞がいかにか一刻をあらそう疾患かを救急隊の方に知って頂くために勉強会を開きたいと申し出をさせていただきました。草の根のような活動ですが、急性期医療は当院でお引き受け出来るように体制を整えていきたいと思っております。長くなりましたが私からは以上です。

- 実は当院の患者さんとして、近所に住んでいて昔から知っており、30 年前から高血圧で、この 3 月からは心房細動で診ていました。この患者さんにはお節介な医療従事者の親戚が居て「小沼先生は胃腸科が専門なんだから、心臓の専門の先生に受診したほうがいいよ」と言われたため、循環器を標榜している市内のクリニックに受診したようです。そのクリニックから心房細動ということですぐ日赤に紹介されて、8 月 31 日に入院になりました。日赤では非常によく診て下さったようで、心不全の原因はアミロイドーシスかサルコイドーシスか、という珍しい病気まで疑って検査してくれたそうです。心カテをした所、虚血性心疾患ではなく AI が出てきているのが関与しているだろうとの事でした。当院で使っていた薬をやめて、今後は日赤で診てもらおうということで退院になったようです。その 10 日後、お昼頃からお腹の調子が悪く 18 時にお風呂に入り、18 時 10 分に嘔吐し倒れ、意識が無い所を家族が発見し救急車を呼んだという経緯です。家族に聞くと心臓からの病気で倒れたと思い、日赤に入院していたので日赤に搬送を希望されたようですが、先ほどあったようにやむを得ない事情でお断りされたので国際医療福祉大学病院に搬送されました。国福でのレントゲンを見ましたが、見事に SMA 塞栓による麻痺性のイレウスが起こっていました。日赤にはインターベンションが得意な水沼先生が居るので、水沼先生なら血栓溶解療法で助けられたのかもしれないなど、残念に思います。家族も日赤だったら助かったのかもしれないと思っているかもしれません。先ほど井上院長からもあったように家族は無念だろうと思っております。あともう一つ、私のところに 30 年通っていて 1 日だけ他のクリニックへ行き日赤に紹介された患者ですが、退院の時は私の所に経過報告が欲しかったなと思っております。近所の患者さんなので、声を掛けたり顔をみる事ができたのではと無念に思います。日赤の事情を聞くと仕方がなかったと思いますが、助けられたかもしれない命だったのではと思う節もあるので、とても残念です。以上です。

小沼

- 小沼先生、貴重なご意見ありがとうございました。今回の事例を再度検討し、今後このような事が無いように対策していきたいと思っておりますので、引き続き宜しく願いいたします。

青木

<p>5. 地域がん診療連携拠点病院である那須赤十字病院からの情報提供について</p> <ul style="list-style-type: none"> ● pptスライド、配付資料のとおり説明。 	<p>田村</p>
<p>6. 質疑応答・その他</p>	<p>齋藤</p>
<ul style="list-style-type: none"> ● 本日この会議に参加しようと予定された時間にIDを入力しましたが、ログイン出来ませんでした。連携室に連絡しましたが、この準備のためか誰も出ず代表に連絡して、担当の方に繋いでもらい新しいIDを教えてもらい、遅れて参加することが出来ました。この様な事もあるかと思いますので、連携室の電話は繋がるようにして欲しいです。 	<p>塚原</p>
<p>あともう一つが、先週西那須野塩原地区医師会があったので前回の連絡会の内容を報告したところ、「色々な事情があるのは分かりますが、那須赤十字病院は拠点病院でもあるので、ぜひ発熱外来をやってほしい」という意見がありました。前回の連絡会で十分ご説明して頂きましたが、そのような意見があった事をご報告します。</p>	<p>井上</p>
<ul style="list-style-type: none"> ● 齋藤先生からのご意見に関して、感染対策室の阿久津副院長からお話させていただきます。 	<p>阿久津</p>
<ul style="list-style-type: none"> ● 院内の感染対策推進室長をさせて頂いてる阿久津と申します。齋藤先生、貴重なご意見ありがとうございます。発熱外来についてですが、実は当院かかりつけの患者さんは、駐車場にある簡易的な建物にて発熱外来として検査させて頂いております。一般の患者さんの発熱外来については、当初県から当院の役割として重症患者も受入れるように言われていました。現在は重症患者は、自治・獨協・済生会の3病院が診てくれています。現在の当院の役割は、透析患者、妊婦、小児、外国の方など、他施設では受入れにくい患者さんを入院させて診療する事が県からの要請です。当院は、言い方が悪いかもしれませんが、1人1人が手間の掛かる患者さんを受け入れて対応しています。そこを認識して頂けると非常にありがたいです。かなりのマンパワーが必要で、一般の発熱外来を行う余裕が無いというのが現状です。今後、井上院長と共にそのような部分にも手を出せるように、マンパワーを充実させていけるように、努力していきたいと改めて思いました。ご意見ありがとうございました。 	<p>齋藤</p>
<ul style="list-style-type: none"> ● 今ご説明いただいた事を次の地区医師会で報告させていただきます。ありがとうございます。 	<p>齋藤</p>
<p>ー閉会挨拶ー</p>	<p>青木</p>
<ul style="list-style-type: none"> ● 本日はこれで終了とさせていただきます。次回の開催は12月20日(火)を予定しております。開催方法は検討して改めてご連絡させていただきます。その他、事例やご意見がございましたら地域連携課までご連絡いただければ幸いです。今後とも引き続き宜しくお願いいたします。ありがとうございました。 	<p>青木</p>
<p>(散会)</p>	<p>以上</p>
<ul style="list-style-type: none"> ➢ 次回開催日 2022.12.20(火) → 2023.1.17(火)へ変更となります。 ➢ 次回配付資料は後日配付いたします。 ➢ 次回のZOOMミーティングID、パスコードを事前に通知致します。 	<p>以上</p>

議事録

表 題	令和4年度第4回那須赤十字病院 地域医療支援連絡会	管理番号	栃那病携第6号		
		作成者	地域医療福祉連携課 高橋 瑞季		
		承認	審査	担当	
		/		/	

開催日時	2023年1月17日(火)19:00~20:00	次回日時	2023年4月18日(火)19:00 予定
開催場所	那須赤十字病院 マイタウンホール	次回場所	那須赤十字病院 マイタウンホール
出席者	<p>【院外】</p> <p>小沼 一郎、塚原 純雄、車田 宏之、齋藤 仁、渡邊 敏郎、村井 成之、上野 顕 磯 勝彦、栗野 哲実、松本 道尚、倉俣 久美子、森 繁雄、渡辺 鉄夫、赤羽根 泰啓</p> <p>【院内】</p> <p>井上 晃男、阿久津 郁夫、佐藤 隆、田村 光、白石 悟、唐橋 正弘 菊池 範江、水沼 仁孝、福島 史哉、城戸 啓、林 堅二、宮城 徳人 人見 優子、青木 哲也、安藤 有紀、菊池 明日香、後藤 彰秀、原 ひなの、堀江 佳子</p> <p style="text-align: right;">赤：欠席 青：代理</p>		
議題	意見交換（配付資料参照）		
配布資料 その他	ppt スライド（会次第、会員名簿、地域医療支援病院としての現況報告、アンケート結果報告）		
配布先	出席者全員		

進行内容	発言者 (敬称略)
<p>ー開会挨拶ー</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 皆様こんばんは。定刻になりましたので、令和4年度第4回那須赤十字病院地域医療支援連絡会を開催したいと思います。委員の皆様、本日はお忙しい所参加していただきありがとうございます。本日の司会進行を務めさせていただきます、地域連携課の青木と申します。スムーズな進行を心がけていきます。本日は宜しく願いいたします。 ● 出席者報告 (ppt スライド参照) <p>1. 挨拶</p> <p>1-① 那須都市医師会 会長 小沼 一郎 先生</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 本日は自宅から参加させていただきます。寒くなりまして、胆嚢炎、胆管炎の重症患者が増えてくるころですが、県北医療はひっ迫しており、救急受入を断られている先生もいらっしゃるかと思います。後ほど、救急隊からの現状についてお聞かせ願えればと思います。コロナウイルスの現状ですが、本日も栃木県内で 2,149 人陽性者が出ています。日赤に入院している患者は 23 人、そのうち重症が 1 人という状況です。宿泊療養施設で 23 人。県内 7 箇所の宿泊療養施設がありますが、だいたい 15~25 人の間で推移しています。自宅待機者は 623 人です。県北でも 104 人居ます。コロナワクチンについてですが、5 回目を打っている段階ですが、心配しているのが、市町村によって 5 回目の接種率に差があることです。那須町、那須塩原市は約 50%ですが、大田原市が約 30%だそうです。後で大田原市の担当者に理由や今後の対 	<p>青木</p> <p>青木</p> <p>小沼</p>

策をお話頂きたいと思います。また、インフルエンザが出てきまして、一般診療とコロナの診療で大変だと思います。職員が感染した場合に人手不足で忙しく、悪循環になってしまいます。何とか皆さんの努力でカバーしていくしかないと思います。皆様ご苦勞様でございます。対応頂いてる先生方、病院の先生方、今が一番大変かと思います。春はそう遠くないので、状況も少しずつ良くなっていくのではと思っております。宜しく申し上げます。

1-② 那須赤十字病院 院長 井上 晃男

- 先生方、委員の皆様、本日はお忙しい中参加していただきありがとうございます。日頃より当院の診療に際してご理解ご協力を賜りまして感謝申し上げます。去年の12月28日に救急病棟で濃厚接触が出てしまったため、救急患者の受入が非常に厳しい状況になり、急遽医師会事務局及び消防に連絡を取りまして、大変ご迷惑をお掛けしました。先生方、患者様にはご迷惑をお掛けしましたが運営上はトラブル無く過ごす事が出来ました。先週から救急病棟もオープンし、徐々に通常の救急業務が運営できる体制になってきました。県内の重症コロナ患者を受入れる自治、獨協、済生会いずれも受入不能という状態になって、本来であれば当院は中等症の患者さんを受けることになっていますが、そのような事を言ってる場合ではなく、重症患者さんも受けましょうと言っていた矢先、昨日救急病棟でコロナ陽性患者が出てしまい、全面的に救急病棟閉鎖という状況になってしまいました。それ以外でICU・GICUの2床しか使えなくなってしまい、急遽消防に連絡し、昨晩は救急車の受入をお断りせざるを得ませんでした。本日一般病床で救急患者を入院できる体制を整えまして、救急車を受けられるようになりました。今後どうなるか分かりませんが、お断りしない体制を構築していく事をお約束したいと思っております。各地域の医療現場の状況をメディアで拝見しますと、横浜の病院でそこは有名な三次救急の病院で、通常90%以上の重症患者を受けている病院だそうです。その病院が先月は50%以上お断りせざるを得ない状況だったそうです。重症患者、交通外傷、心筋梗などの受け入れ先が無い状況が全国的に起こっています。医療体制のひっ迫どころか、崩壊寸前、すでに崩壊してしまっている所もあります。当院は県北医療最後の砦という使命感をもって動いていてもこの状況です。私の管理者としての能力不足で反省をしております。万全の体制を構築すべく努力して参りますので、ご理解ご支援ご鞭撻のほど宜しくお願い申し上げます。以上で挨拶とさせていただきます。

井上

2. 地域医療支援病院としての現状報告 (ppt スライド、配布資料参照)

- 資料のとおり説明。

青木

3. コロナ診療の状況について

- 皆様こんばんは。本日まで参加頂いている皆様には日頃より大変お世話になっております。この場をお借りして御礼申し上げます。先ほど、小沼先生と井上院長よりお話頂きましたが、当院及び栃木県のコロナ診療においてご説明させていただきます。資料はございませんのでご了承願います。栃木県ではこれまでに、約39万人が感染しております。これは県民の20%超、5人に1人以上が感染したことになります。死亡者も900人に迫っています。入院患者数は県全体で509名、重症者12名、病床使用率は66.9%です。病床使用率については1月6日に、この3年の中で過去最高の74.9%を記録しています。それでもまだベッドの4分の1は残っているのではないかと思う方もいらっしゃるかもしれませんが、受入側としてはリミットの数字だろうと思います。第7波が収束してすぐに第8波が始まってしまったので、医療現場

阿久津

は休む暇無く、コロナ患者を受入れている現場は疲弊している状態だと思います。当院の発熱外来を含めた陽性者数を見ますと、昨年8月は256名、9月98名、10月84名と若干低下しました。その後また増加し、11月中旬133名、12月257名。11月12月で著しく増加してきました。その増加は1月になっても変わっていません。それに伴い入院患者も、10月中旬は平均6名程度まで減っていましたが、11月には12名、12月中旬には17名、12月下旬から20名が入院しています。1月4日には過去最高の23名となりました。当院のコロナ患者用の病床は、8階西病棟が20床、感染症病棟6床の合計26床ですので、MAXの病床稼働率は84.6%を記録しました。当院に入院する患者さんでは、コロナそのもので酸素投与を要するレベルの肺炎、透析患者、妊婦で帝王切開が必要な方、小児科管理が必要、コロナは比較的軽症でも基礎疾患が重症の方などが入院されています。入院患者数だけでなく、どのようなレベルの患者さんを受入れているかも地域の皆様にはご理解頂ければと思います。つい最近、てんかん重積で人工呼吸器が必要な方をGICUの陰圧室で受け入れさせていただいた所です。コロナ緩和風潮の中、現在職員の感染も多く、療養期間・待機期間のためマンパワーが非常に厳しくなっています。スタッフのコロナ感染のため、12月末に耳鼻咽喉科、1月上旬には整形外科の診療を一部制限させていただきました。ご迷惑をお掛けした方々にお詫び申し上げます。社会はwithコロナでも、病院はゼロコロナを求められています。このギャップについては、ここにいらっしゃる皆様も憂慮されていると思います。おかげさまで今のところ他院でみられるような、制御しきれない様な大クラスターはございませんが、入院患者さんの院内発症、小クラスターは起こっています。発熱患者さんのは積極的にPCR検査を行い、陽性者が出た場合は速やかにその病棟を閉鎖し、フルPPEとすることで早期に感染を制御し短期間で開棟出来るよう対処していますが、通常より入院稼働ベット数が減少している場合がございます。患者さんの中には二次症例が多く、そのような方も個室に收容しますと個室の必要度が高まっています。個室対応が必要な重症患者さんに影響しないように、三次救急とコロナ診療の両立という難しい課題をクリアしていくために地域の皆様のご理解ご協力が不可欠と考えております。今後とも何卒宜しくお願い申し上げます。

3. コロナワクチン接種（5回目）について、行政の皆様からの報告

3-① 大田原市

- 皆様こんばんは。大田原市健康政策課の松本と申します。日頃から皆様にはお世話になっております。本市の5回目ワクチン接種について説明いたします。令和4年1月の総人口70,190人で算出した率ですが、3回目接種率が72.1%、4回目48.9%、5回目18.5%となっております。5回目については、1月16日時点での接種率になります。3回目以降にオミクロン株対応ワクチンを接種した方ですが、38.2%で26,826人が接種しています。本市は現在オミクロン株対応ワクチンの接種率が一番低い状況です。その理由としまして、オミクロン株対応のワクチン接種開始時期が10月に入ってからスタートしてすぐにBA-5のワクチンが出されるとの情報が入ったため10月のワクチン接種者がいなかったため、接種率が低い原因になっているのではと分析しております。対象者にはすでに接種券を送付しております。1月にかなりの数の4回目5回目併せて接種されている状況です。今後率が上がってくるのではないかと分析しております。現時点では2月半ばまでの集団接種予約を受け付けております。2月末までは集団接種を行う予定で、摂取率を上げていきたいと思っております。以上です。

松本

3-② 那須町

<ul style="list-style-type: none"> ● 皆様こんばんは。那須町福祉課長の森と申します。本日お集まりの那須赤十字病院をはじめ、那須郡市医師会の先生方には日頃から医療行政の推進、コロナワクチン接種にご尽力を賜り厚く御礼を申し上げます。本町の新型コロナワクチン接種状況についてご説明させていただきます。まず5回目の接種状況ですが、1月14日終了時点で7579回で摂取率は31.5%です。5回目接種の中心となる60歳以上の方を対象とした摂取率は60.5%です。昨年9月から始まったオミクロン株対応ワクチンは13,690回で摂取率は60.5%となっております。全国的に摂取率の伸び悩みが指摘されていますが、本町に関しては60歳以上を除き、若年含む全世代とも平均を上回る摂取率で、年代によっては倍近くの摂取率となっております。本町においてはこれまで接種日を指定して集団接種を開設してきましたが、連日開催は今週末をもって一旦終了し、今後は小児も含め週1.2回程度の開設に縮小する予定です。以上です。 	<p>森</p>
<p>3-③那須塩原市</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ● 皆様こんばんは。那須塩原市健康増進課長の倉俣と申します。よろしくお願ひいたします。日頃より皆様には大変お世話になっております。本市の新型コロナワクチン接種状況についてご報告させていただきます。はじめにオミクロン株対応ワクチンの接種状況ですが、個別接種は市内3カ所の医療機関のご協力頂き実施しております。集団接種はビックエクストラ那須塩原店と塩原支所で実施しております。塩原支所会場は1月22日、ビックエクストラ会場は1月30日で終了となる予定です。なお、ビックエクストラ会場では市民であれば1月30日まで予約なしでも接種できる取り組みを行っております。接種率に関しては、1月15日時点で、全市民117,005人に対するオミクロン株対応ワクチン接種率は47.9%です。年代ごとの内訳は65歳以上の方が対象者32,963人のうち、接種済みの方が23,621人で接種率が71.7%となっております。50歳以上の方は60%以上の接種率となっている一方で、40歳以下の若い世代は50%未満の接種率ではありますが、全国平均や栃木県平均を上回る接種率です。5歳から11歳までの小児接種率ですが、市内4カ所の医療機関で個別接種を実施しております。初回接種を終えた方は、対象者7,121人のうち2,354人で接種率は33.1%となっております。生後6ヶ月から5歳未満の接種率は市内2カ所の医療機関で個別接種を実施しております。初回接種を終えた方は、対象者4,027人のうち144人で接種率は3.6%となっております。すべての年齢において、コロナワクチン接種については令和5年3月31日で終了となります。4月1日以降については、現在国において議論されておりますが、今後も見直しに基づき申し合わせていこうと思っております。今後も新型コロナワクチン接種にご協力のほど宜しくお願い申し上げます。 	<p>倉俣</p>
<ul style="list-style-type: none"> ● 今、大田原市、那須塩原市、那須町からコロナワクチンの接種状況のお話がありましたが、先ほど私が口頭で申し上げた通り、オミクロン株対応ワクチンのBA-1、その後にてたBA-5をいかに接種するかが大切です。先ほど報告があったように、那須町では60.5%、那須塩原市が47.9%、大田原市は38.2%と差があります。大田原市の課長に申し上げたいのが、自分の所だけで悩まずに、周りの市や私に相談してほしいです。助言をしてあげたいんですが、大田原市からも大田原医師会からも私の所に相談がないので、残念ながら助言できてません。遠慮なさらずに相談してください。宜しくお願いいたします。 	<p>小沼</p>
<ul style="list-style-type: none"> ● 大変ありがたいお言葉ありがとうございます。先ほど私から説明しました通り、接種率が低い状態ですので、ご教授いただき接種率を上げていきたいと思っております。どうぞ宜しくお願い申し上げます。 	<p>松本</p>
<ul style="list-style-type: none"> ● 松本課長に伺いたいのですが、大田原市で接種率が伸びていない理由はどうぞお考えですか。 	<p>井上</p>

<ul style="list-style-type: none"> ● ご説明いたします。先ほども申し上げましたが、オミクロン株対応ワクチンの接種開始日が10月に入ってからスタートしたというのが1つの大きな原因となります。単純に3回目にオミクロン対応ワクチンを打つと4回目5回目を接種しない、4回目にオミクロン株を打つと5回目は接種しないという状況にありますので、5回目まで進んでいない状況にあると思います。1月までの状況では、集団接種を毎週土日に行っております。現時点で市内30の医療機関で個別接種を行っていただいておりますが、発熱外来等で逼迫している中個別接種をしていただくのがとても大変だと思います。1月末までに少しでも接種率を上げていきたいと思っております。 	<p>松本</p>
<ul style="list-style-type: none"> ● やはり那須町は集団接種で実施しているので接種率が伸びます。那須塩原市も集団接種会場をたくさん設けて大規模で行いました。大田原市は最初から個別接種をメインにして行いたと言っていたのを私は危惧していました。個別接種を行う先生方が忙しくなり、ワクチン接種枠が減ってしまい、個別接種をあてにしていた市民が接種できない状況にあると思います。そして集団接種会場が少なく、土日限定行っており平日は接種できないという門の狭さが接種率の差に表れていると分析しております。本日いらっしゃる塚原先生も、午後の診療を早めに切り上げて集団接種にご協力いただき、その努力の結果が驚異の60%という接種率になっていると思います。政府は3月31日までしが予防接種を予定しておりませんので、ここが頑張り所だと思います。大田原市には頑張って接種率の回復をしてほしいです。また相談に乗りますので、ぜひ頑張りましょう。 	<p>小沼</p>
<p>4. アンケート結果について</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ● 議題に対するご報告です。こちらは上野先生からのご意見になります。11月14日(月)午前9時頃、18歳女性が腹痛にて来院しました。痛みが酷そうなので那須赤十字病院の連携室に緊急診療を依頼するも、対応できる医師が居ないと断られました。その後那須南病院へ連絡し、救急車で搬送となりました。CT検査を行い婦人科系の疾患が疑われたため、那須南病院から那須赤十字病院へ救急搬送となり、その日緊急手術となったという経緯です。この件に関して、最初から那須赤十字病院で対応できればスムーズに治療ができたのではないのでしょうか。というご意見を頂いております。この件について院長より回答させていただきます。 	<p>青木</p>
<ul style="list-style-type: none"> ● この事例を聞いたとき、とんでもない事だと思いました。まず、上野先生に謝罪を申し上げます。18歳の女性の腹痛ということで、婦人科系の疾患も候補に入れて考えることも必要だったかもしれませんが、それ以前に私が問題視したいのは、腹痛で苦しんでいる患者さんを断るという事です。那須南病院さんに受けていただいて、婦人科疾患という事で当院の婦人科が受けたのが不幸中の幸いでしたが、どの科であっても当院で受けなければなりません。救急のお断り事例を見てみると、本当に断らなければならない時もあります。しかし今回のケースもまだある状況です。これだけ大きな病院だといろんな医者が居るわけで、院長の立場で当人に叱責するのは簡単ですが、それでは解決しません。その科の責任者に教育的な配慮で教えてほしいと伝えております。このようなケースは私が赴任した4月に比べると減ってきました。こういったケースをゼロにできるよう、引き続き努力して参りますのでご理解をお願い申し上げます。 	<p>井上</p>
<ul style="list-style-type: none"> ● 最後になりますが、救急患者受け入れ時のチェック項目というものを連携課で使用しております。受け入れる医師に統一した情報を伝えるために聞き取りを行っております。大変恐縮ですが、引き続きご理解とご協力をお願い申し上げます。以上です。 	<p>青木</p>
<p>5. その他</p>	

<ul style="list-style-type: none"> ● 先ほど小沼先生がおっしゃっていた、救急搬送件数について消防からな報告等あればお願いいたします。 ● 那須地区消防の永山です。日頃から消防業務全般、救急搬送にご理解ご協力を賜りましてありがとうございます。この場をお借りして御礼申し上げます。まず、令和4年1月1日から12月31日までの救急搬送件数についてご説明いたします。一昨年は8,547件の救急出動がありました。昨年は1,803件増の10,350件の救急出動がありまして、管内の出動件数としては過去最高の件数となっております。昨年から今年にかけての年未年始の救急に関しては、12月29日から令和5年1月3日の6日間で173件の出動件数となっております。12月20日から1月15日までですでに645件の救急出動件数があります。そのうちコロナ関係の救急事案は73件となっております。現場滞在時間で最長は2時間04分で、これは現場に救急隊が到着して搬送先が決まらず現場に滞在していた時間です。各病院に問い合わせた最多回数は14回となっております。速報として1月9日から1月15日までで、救急搬送とコロナ事案で4回以上病院照会した件数が29件、現場滞在時間が30分以上だったのが56件、これを両方満たしているのが28件という数字となっております。今年1月1日から1月17日までの救急件数は526件で、その内管外の医療機関に搬送したのが36件ほどあります。常日頃から救急業務に関して病院や先生方にご協力ご理解いただきありがとうございます。これからも宜しくお願い申し上げます。以上です。 	<p>青木</p> <p>永山</p>
<ul style="list-style-type: none"> ● 一閉会挨拶一 ● 皆様貴重なご意見ありがとうございました。本日のこれで議題はすべて終了しました。次回の開催は令和5年4月18日（火）です。詳細が決まりましたら改めてご連絡申し上げます。また、今後何かございましたら地域連携課までご連絡いただくと助かります。それでは、令和4年度第4回那須赤十字病院地域支援連絡会を閉会したいと思います。皆様ありがとうございました。 <p>(散会)</p> <p style="text-align: right;">以上</p>	<p>青木</p>

(第19号様式) 患者相談の実績

患者相談を行う場所	総合案内、相談窓口、相談室、病棟面談室
主として患者相談を行った者 (複数回答可)	医療相談：病棟・外来看護師、社会福祉士、 医事課未収担当者 健康相談：臨床心理士、担当看護師
患者相談件数	9,222件
患者相談の概要	
医療相談： 1,671件 (別紙参照)	
健康相談・電話相談： 7,093件	
総合案内(看護師相談)： 494件 (トリアージ、受診科相談、症状相談、介護相談、その他)	

(注) 患者相談の概要については、相談内容を適切に分類し記載するとともに、相談に基づき講じた対策等があれば併せて記載すること。また、個人が同定されないよう配慮すること。

医療社会事業年報

令和4年度分

1. 取扱い件数

ケースの区分		件数
年度実件数		2559
継続実件数		888
新規件数	入院	1107
	外来	564

2. 年度延人数

ケースの区分	件数
年度延人数	7295

3. 新規ケースの紹介経路

区分	件数
医師	100
看護師	684
リハビリ職	5
その他院内職員	235
本人	13
家族・親戚縁者	21
院外関係機関	417
近隣者・知人	0
医療チーム	143
ソーシャルワーカー	53
合計	1,671件

4. 介入の時期

区分	件数
受診前	92
外来	260
入院前	23
入院中	1107
その他	189

5. 社会的背景

区分	件数
独居	352
経済困窮	210
家族疎遠・身寄りなし	93
ハイリスク妊産婦	38
精神疾患	165
認知症	330
家庭内暴力・虐待	108
自殺企図	10
無保険	11
身元不明	2
ホームレス	1
外国人	9

6. 援助内容

区分	実件数	延件数
受診・受療	312	1045
経済的問題	127	693
制度活用	616	1933
入院療養支援	13	30
退院支援	872	7435
在宅療養・介護	56	174
医療者との関係	24	99
家族関係	133	717
日常生活	28	122
就労・就学	18	77
身元保証・権利擁護	119	740
死後対応	14	51
その他	10	19
合計	2,342件	13,135件

7. 援助方法

方法	件数	
面談	本人	434
	家族	577
	友人・知人	3
電話	本人	85
	家族	2143
	友人・知人	14
訪問	家庭	0
	その他	4
同行・同伴・代行	14	
連絡調整・院内	12656	
連絡調整・院外：面会	47	
連絡調整・院外：電話	10628	
連絡調整・院外：文書他 メール他	3031	
カンファレンス(院内職種のみ)	339	
カンファレンス(院外職種含む)	170	
合同カンファレンス(院内職種のみ)	17	
合同カンファレンス(院外職種含む)	51	

8. チーム医療

チーム名	症例数
退院支援チーム	65
認知症ケアチーム	0
患者サポートチーム	39
リエゾンチーム	0
緩和ケアチーム	18
虐待対応チーム	21
倫理コンサルテーションチーム	0
その他	0

(様式第 20)

その他の地域医療支援病院に求められる取組みに関する書類（任意）

1 病院の機能に関する第三者による評価

① 病院の機能に関する第三者による評価の有無	有
評価を行った機関名：日本医療機能評価機構 評価を受けた時期：平成26年2月 平成31年2月	

(注) 医療機能に関する第三者による評価については、日本医療機能評価機構等による評価があること。

2 果たしている役割に関する情報発信

① 果たしている役割に関する情報発信の有無	有
・ 情報発信の方法、内容等の概要 ホームページ、広報誌の送付、病診連携のための外来診療予定表の送付 病診連携懇談会の開催、研修会の開催 等	

3 退院調整部門

① 退院調整部門の有無	有
・ 退院調整部門の概要 退院支援看護師専従4名、MSW3名 介護保険新規申請、在宅療養を希望しているケースは退院支援看護師が担当し、転院や社会的な介入が必要なケースはMSWが担当している。 病棟毎に毎週定例で行っているチームカンファレンスや退院前カンファレンスへの参加、患者家族との面談を行っている。	

4 地域連携を促進するための取組み

① 地域連携クリティカルパスの策定	有
・ 策定した地域連携クリティカルパスの種類・内容 脳卒中地域連携パス、大腿骨地域連携パス、廃用症候群地域連携パス、 がん地域連携パス ・ 地域連携クリティカルパスを普及させるための取組み 各年3回のパス会議を開催	